

NEDO Technology Commercialization Program (TCP) 2015 ファイナルイベント



積み重ねた努力を胸に
扉の向こうへ
大きく羽ばたく時がきた

【主催】 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)、株式会社日本総合研究所

【企画・運営】 合同会社SARR

【協力】 SRI International、株式会社三井住友銀行、株式会社パソナテック、株式会社カピオン、
京都府、京都市、京都リサーチパーク株式会社

お問い合わせ

株式会社日本総合研究所
〒141-0022 東京都品川区東五反田2丁目18番1号 大崎フォレストビルディング
E-mail : info@noip.jp TEL : 03-6833-6587 (担当 : 桑原)
申し込み先URL : <https://form.pasonatech.co.jp/m/tcp2015e>

<http://noip.jp/> 

平成27年12月9日(水) 13:00 ~

京都リサーチパーク

西地区4号館地下1階バズホール / 東地区1号館アトリウム

プログラム

13:00

開 会

- ・開会のあいさつ 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) イノベーション推進部 部長 久木田 正次
- ・NEDO-TCPIについて 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) イノベーション推進部 主任 伊吹 信一郎
- ・審査員の紹介と発表ルールの説明

13:30

ファイナリストによるプレゼンテーション①

- ・株式会社 Eyes, JAPAN
- ・APSAM (Automated Pathological Service by Applied Mathematics)
- ・A Protein Synthesis System 3.0 (PSST)
- ・Kanda Robotics
- ・コグニティ株式会社
- ・サイマックス株式会社
- ・サスメド合同会社

14:35

休 憩

14:45

ファイナリストによるプレゼンテーション②

- ・ChiCaRo
- ・Hero Egg
- ・Brand Pit
- ・Venom Technologies
- ・メロディ・インターナショナル株式会社
- ・LacteoLABO
- ・合同会社WiFiシェア

15:50

休 憩

16:00

書類審査通過者によるショートピッチ

- ・株式会社飛鳥電機製作所
- ・株式会社アドアテック
- ・株式会社eNFC
- ・イーセップ株式会社
- ・株式会社エコス
- ・チームRetissa
- ・Network Intelligence
- ・バブレーション(Bubble+Ablation)
- ・微小めっき研究所
- ・株式会社Pyrenee (ピレネー)
- ・minimal
- ・WondeLab

16:30

休 憩

16:40

講演①

- ・京都が取り組むイノベーションの推進について 京都高度技術研究所 所長 西本 清一 氏

16:55

講演②

- ・三井住友銀行の成長企業支援への取組 株式会社三井住友銀行 法人戦略部 成長事業担当部長 池口 亮二 氏

17:05

講演③

- ・今注目のハイテク都市、オースティンへ! ~世界からスタートアップの殿堂、SXSWへ集合~
Sandeep Kumar Tech Ranch Austin, Partner/株式会社SARR TECH RANCH 取締役

17:15

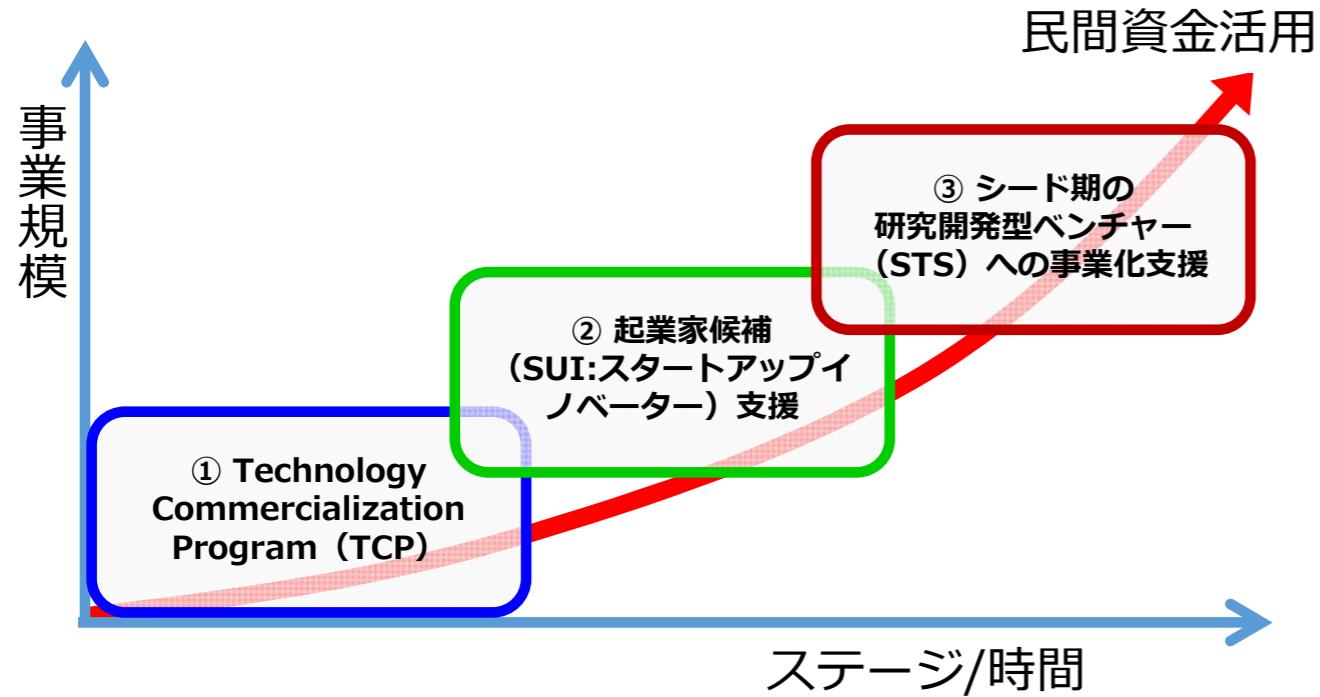
審査結果発表 表彰式

17:30

閉 会

18時~20時 ポスターセッション・デモ 兼 懇親会(アトリウムにて)

研究開発型ベンチャーの立ち上げから事業化までを切れ目なく支援
各支援スキームの位置づけ



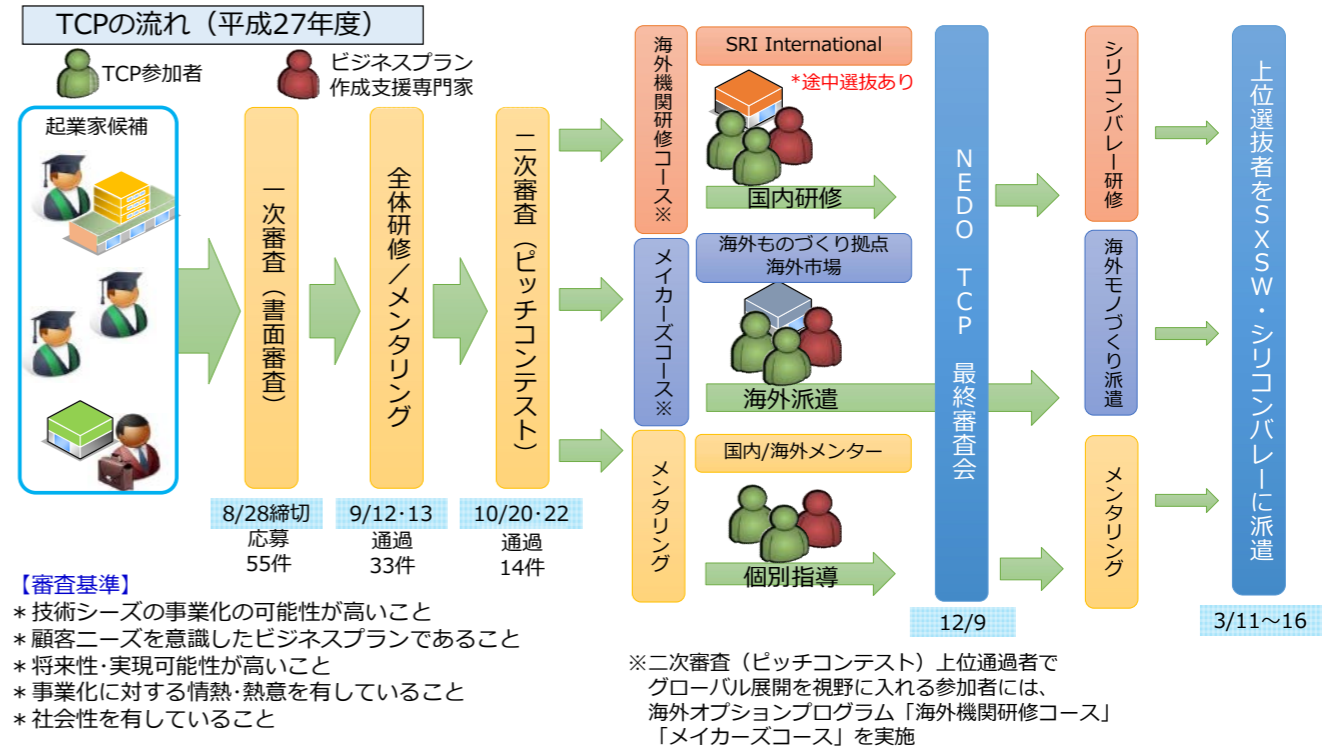
大学・研究機関等の起業家候補に対するビジネスプラン作成支援研修
① Technology Commercialization Program (TCP)

技術シーズの事業化やそのプロセスに関心を有する国内の大学・研究機関等に在籍する研究員、大学院生、学部生であって、将来起業することを視野に入れている方を対象に、ビジネスプラン作成のための研修と、ビジネスプラン発表の機会を提供します。

詳細は専用サイト <http://noip.jp/index.html> でご案内しています。

対象者	大学等の技術シーズを用いて起業を目指す研究者等 (企業・大学等の個人)
応募資格	○技術シーズの事業化に関心を有する国内の大学・研究機関等に在籍する研究員、大学院生、学部生であって、将来起業することを視野に入れている方 ○企業における研究や新規事業のスピナウトを考えている方、既にスピナウトした方・企業 ○スタートアップ段階にある技術系ベンチャー企業
募集内容	環境・エネルギー、電子・情報通信、バイオ・ヘルスケア、機械システム、ロボット、材料・ナノテクノロジー等の「技術」を活用したビジネスプラン
支援内容	国内外の専門家による助言および研修、海外でのモノづくり支援 活動費の直接的な支援はなし (旅費等の支援はあり)
賞	最終選考のファイナリストから、最優秀賞 (1件)、優秀賞 (1~2件) を表彰 ファイナリストの上位者を対象にSXSW(South by Southwest)でのピッチ機会を提供。
事業期間	プログラムスケジュールに基づいて実施
対象技術分野	経済産業省所管の鉱工業技術 (但し、原子力技術に係るものは除く)

平成26年度 応募69件 > 研修実施後選抜39チーム > 最終審査会ファイナリスト10チーム
 最優秀賞 Photocathode ElectronSoul / 高性能電子ビーム生成装置と素子の販売事業
 優秀賞 Chemical Pincer / 抗体模倣化学分子を用いたバイオ医薬精製プロセスの革新と創薬への展開
 スリープウェル株式会社 / 医療機器小型脳波計を用いた睡眠評価、および精神疾患診断システム
 株式会社PROVIGATE / 非侵襲涙糖値測定器の製造および販売事業



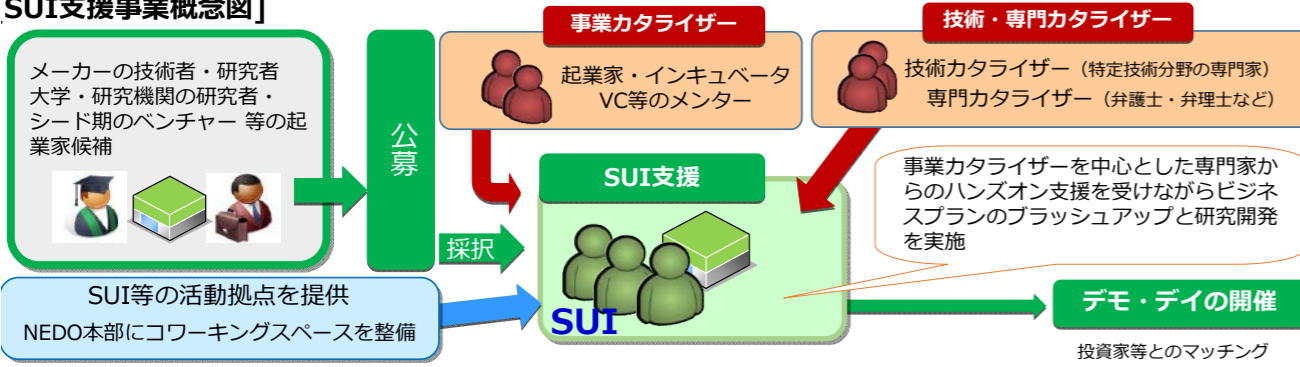
研究開発型ベンチャーの起業家支援

② 起業家候補 (SUI: スタートアップイノベーター) 支援

技術シーズを活用した事業構想を有する起業家候補 (SUI: スタートアップイノベーター) に対し、事業化支援人材 (カタライザー) による指導・助言の機会提供など、研究開発型ベンチャーを立ち上げるための活動を支援します。

対象者	設立前および設立後 (出資を得ていない活動開始前の) 研究開発型ベンチャー
事業実施形態	委託 (NEDO負担率: 委託対象費用の100%)
委託金額	3,500万円以内
事業期間	1年以内
対象技術分野	経済産業省所管の鉱工業技術 (但し、原子力技術に係るものは除く)

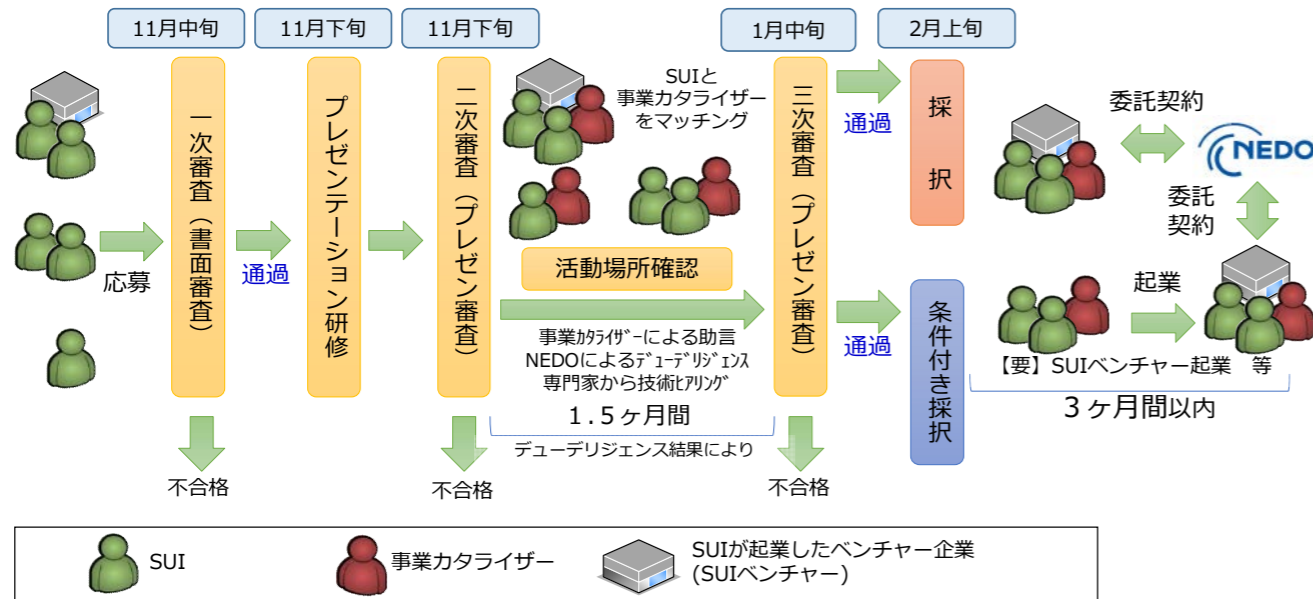
SUI支援事業概念図



平成27年度	予算: 5億円	公募開始 (9月): 審査中 (参考: 平成26年度採択件数: 14件)
--------	---------	--------------------------------------

SUI公募～採択の流れ (平成27年度)

二次審査 (プレゼン審査) 後、1.5ヶ月間の助言・活動場所確認・デューデリジェンス期間を設け、その後の三次審査 (プレゼン審査) を経て採択者を決定。



ベンチャーキャピタル等と連携してシード期の研究開発型ベンチャーを支援

③ シード期の研究開発型ベンチャー (STS) への事業化支援

具体的な技術シーズを活用した事業構想を持ち、NEDOが認定したベンチャーキャピタル等 (認定VC) が出資を行うシード期の研究開発型ベンチャー (STS) に対して、事業化のための助成を行います。

※Seed-stage Technology-based Startupsの略

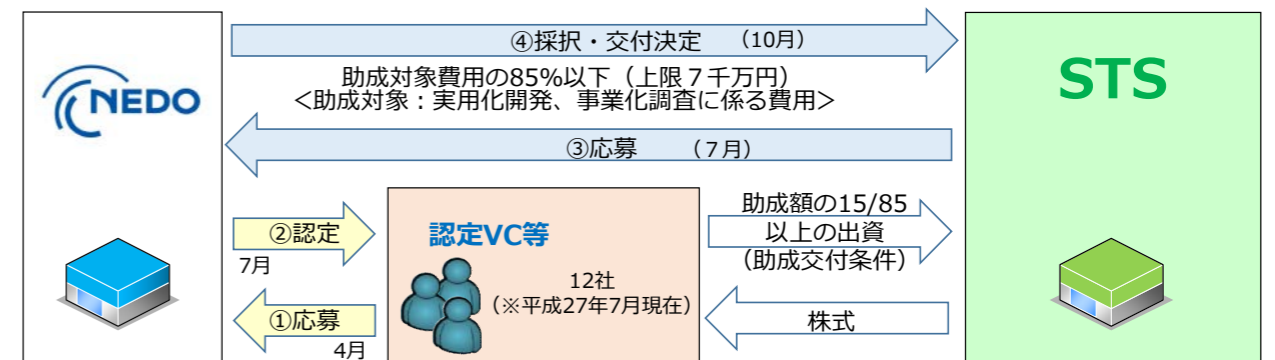
対象者	認定VCから出資 (助成対象経費の15%以上の額) を受けるSTS
事業実施形態	助成 (NEDO負担率: 助成対象経費の85%以下)
助成金額	7,000万円以内 / 事業期間
事業期間	2年以内
対象技術分野	経済産業省所管の鉱工業技術 (但し、原子力技術に係るものは除く)

STSの主な要件

- 日本に登記された法人であること。
※中小企業基本法等に定められている中小企業者に該当する法人でみなし大企業に該当しないこと。
- 特定の技術シーズを有し、その実用化開発と事業化を行うシード期の研究開発型ベンチャーであること。
- 認定VCから助成対象経費の15% (助成金交付申請の15/85) 以上の出資を公募要領で定める期日以降に受けていること。又は、今後出資が予定されていること (出資の意思決定確認書等が必要)。
※申請時において業として出資を行う者から1億円以上の出資を得ていないこと。
- 新市場、イノベーションを創出するものであること。

平成27年度	予算: 17.5億円	第1回公募 (7月開始): 採択17件 / 応募31件、第2回公募実施中 (1月29日まで)
--------	------------	--

VC-STS事業概念図 (平成27年度)



認定VC等の主な要件

- 業としてベンチャー企業への投資機能を有し、STSを支援するハンズオン能力を有するVC等。チームによる申請も可。
- 日本国又は外国政府、国立大学法人、地方自治体の出資が入っていない法人であること。
- 国内にSTS等を支援する拠点 (支店も可) を有し、常駐スタッフを配置していること (計画段階も可)。
但し、常駐スタッフはSTSの支援実績、または支援能力を有すること。

認定期間 ○5年間。但しSTSの支援期間中は当該STSに対する権利義務を継続。

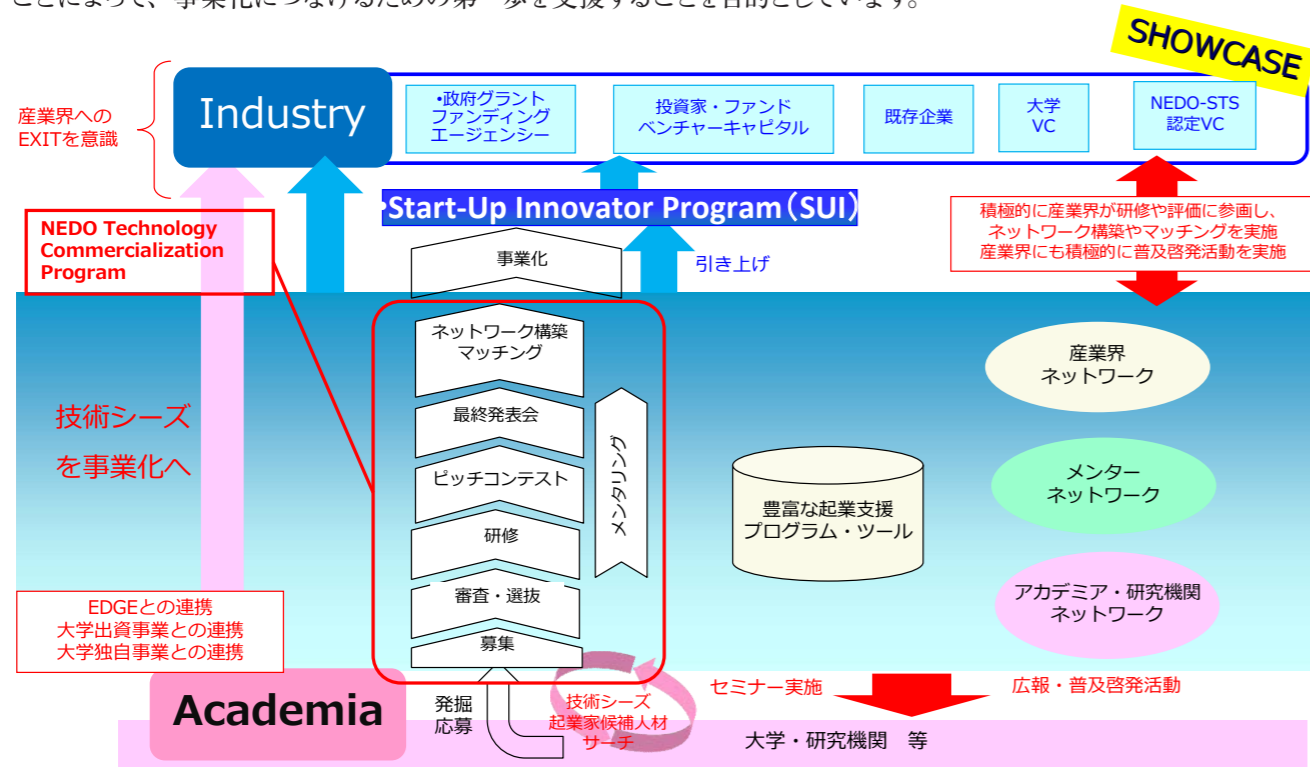
認定VC (平成27年7月現在)

Beyond Next Ventures株式会社 (日本)
Expara Ventures Pte.Ltd. (シンガポール)
Draper Nexus Venture Partners II, LLC (アメリカ)
株式会社東京大学エッジキャピタル (日本)
合同会社ユグレナSMBC日興リバネスキャピタル (日本)
Triple Ring Technologies, Inc. (アメリカ)

株式会社ドリームインキュベータ (日本)
Global Cataly Venture Management Asia, LLP (アメリカ)
株式会社SARR TECH RANCH (日本/アメリカ)
FGC BioVentures LLP (日本)
ハックベンチャーズ株式会社 (日本)
ウエルインベストメント株式会社/AZCA, Inc. (日本/アメリカ)

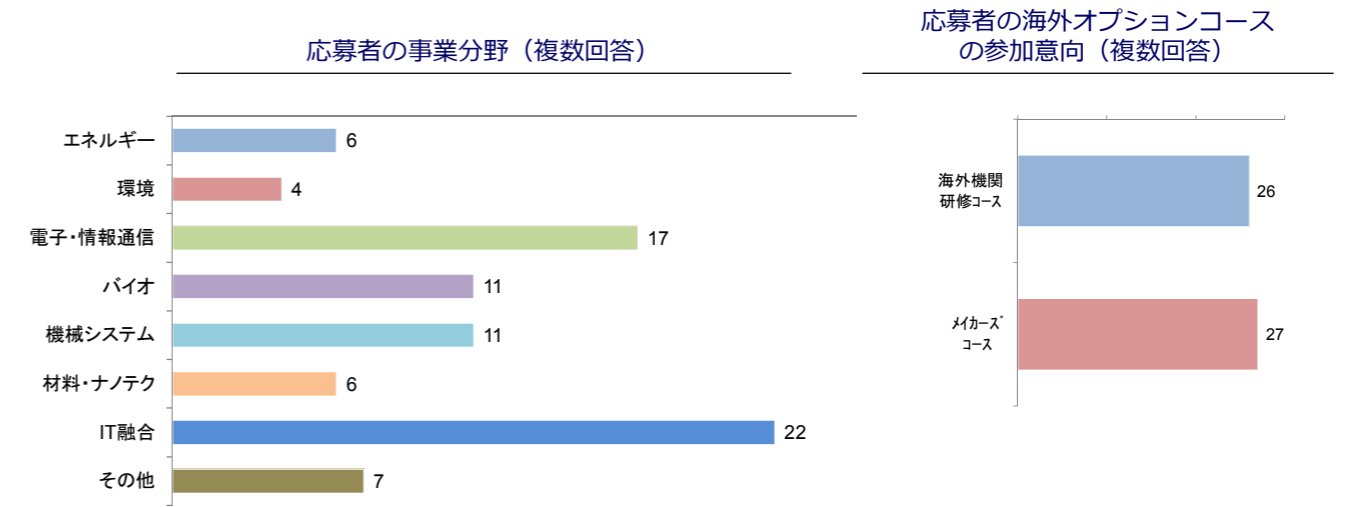
NEDO Technology Commercialization Program (TCP) の全体像

NEDO TCPは、大学や研究機関等に眠っている技術シーズを担いで事業化(起業)をしようとしている人材(もしくは起業したての人材)に対し、研修やピッチコンテスト、ビジネスプラン発表会、産業界との交流の場を提供することによって、事業化につなげるための第一歩を支援することを目的としています。



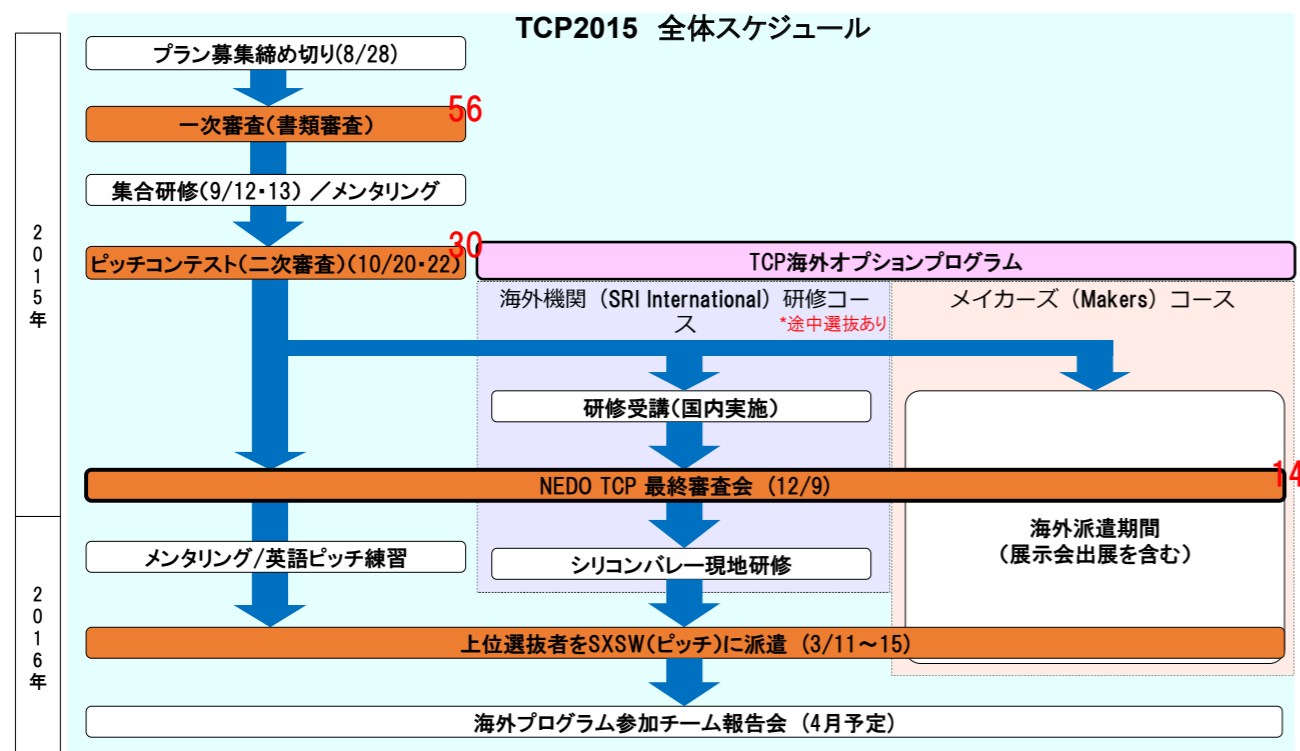
応募者の傾向

56件の応募案件の事業分野はIT融合系をはじめとして、電子・情報通信、バイオ、機械システム、エネルギー等多岐に渡りました。
また多くの応募者が海外オプションコースの参加を希望しており、海外展開への興味の高さをうかがわせる結果となりました。



プログラムのスケジュール

応募のあった56件の案件を、書類審査とピッチによる審査により選抜しました。途中集合研修やメンタリング等によって、ビジネスプランのブラッシュアップやプレゼンテーション力の向上を図っています。
更に優秀者に対しては海外で自らのビジネスプランをアピールするための機会を提供します。



詳細はこちら

<http://www.noip.jp/>

ご連絡・お問い合わせ先: info@noip.jp



各務 茂夫

東京大学 産学連携本部 イノベーション推進部長 教授
一橋大学商学部卒、スイスIMEDE(現IMD)経営学修士(MBA)、米国ケースウェスタンリザーブ大学経営学博士。ボストンコンサルティンググループを経て、コーポレートディレクション(CDI)の設立に参画、取締役主幹、米国CDI上級副社長兼事務所長を歴任。学位取得後、ハイドリック&ストラグル社にパートナーとして入社。2002年東京大学大学院薬学系研究科教員となり、2004年東京大学産学連携本部 教授・事業化推進部長に就任。2013年4月から現職。大学発ベンチャー支援、学生起業家教育に取り組む。



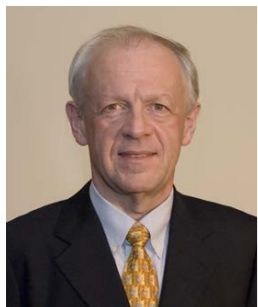
伊藤 毅

Beyond Next Ventures株式会社 代表取締役社長
2003年東京工業大学大学院 理工学研究科化学工学専攻修了後、ジャフコ入社。ジャフコにて主にリードインベスターかつ社外取締役として支援した先には、CYBERDYNE(2014年3月東証マザーズ上場)、Spiber、クオンタムバイオシステムズ、サイフェーズ、マイクロ波化学等があり、大学発の技術シーズ段階からの事業化支援および投資活動に関して多数の実績と経験を有する。
2014年7月にジャフコを退社し、2014年8月に大学発ベンチャー、技術系ベンチャーのシードステージからのインキュベーション投資事業を行うことを目的にBeyond Next Ventures株式会社を創業し、代表取締役に就任。2015年2月より1号ファンドを組成し、主にシード・アーリーステージの大学発ベンチャーへの投資を手がける独立系ベンチャーキャピタルとして活動中。現在、Spiber株式会社、リバーフィールド株式会社、株式会社キュア・アップの社外取締役に兼務。
技術系ベンチャーが今後の日本の新産業を創っていくと信じています。創業者と共に、世界に貢献できる技術系ベンチャーを数多く支援していきたいと思っています。



小笠原 治

株式会社ABBALab 代表取締役
さくらインターネットの共同創業者としていち早くクラウドサービスを手掛ける。
その後、シェアオフィスや飲食を手掛けながら、IT関連のスタートアップを支援する株式会社 nomadを設立。
さらに2013年、IoT時代のモノづくりを支援する株式会社ABBALabを設立。株式会社DMM.comと株式会社Cerevoと 共同で、3Dプリンターサービスなどを中心にしたハードウェア・スタートアップの支援を行う[DMM, make]を設立し現在はエヴァンジェリス トとして活動。本年よりさくらインターネットにフェローとして復帰。
1971年京都府京都市生まれ。



Claude Leglise

SRI International Innovation Programs Executive Director
Claude Leglise is a Visiting Senior Executive at SRI International (formerly Stanford Research Institute) where he focuses on the commercialization of scientific innovation. He has lectured and taught innovation management at the Stanford Graduate School of Business, Tokyo University, University Technology Malaysia, Paris Tech, Lappeenranta University of Technology (Finland), as well as many private companies. He is currently coaching entrepreneurs in China, France and Japan.
Leglise is the Chairman and co-founder of ClearSpot Energy, Inc., a solar electricity services company serving large-scale commercial users of power in California.
Leglise combines extensive global venture investing experience with a long track record in technology marketing and general management. Before launching ClearSpot Energy, he was Managing Director of the WI Harper Group, a Chinese-American venture capital firm. Prior to that, he was Vice President of Intel Capital, where he was responsible for making over 150 equity investments, including CSR, SuSe, Passave, BCD Semiconductors, Linkage Technology, and Techfaith Wireless, in 25 countries.



佐藤 正義

株式会社三井住友銀行 法人戦略部成長事業グループ長
銀行支店業務を経験後、1999年よりエヌ・アイ・エフベンチャーズ株式会社に出向し、ベンチャー投資調査業務に従事。その後、三井住友銀行にて、ベンチャー・成長企業向け融資業務を中心に多数のベンチャーファイナンス案件に携った後、大和証券SMBC株式会社において、IPOを主とする引受審査業務を経験。2009年より三井住友銀行に復職し、現在、法人戦略部成長事業グループにて、IPOを志向するベンチャー・成長企業向け投融資、IPO支援等、各種の成長支援業務に取り組んでいる。早稲田大学大学院ファイナンス研究科修了(MBA)。



曾我 弘

株式会社カピオン 代表取締役
新日本製鐵(株)退職後、20年間シリコンバレーに移住、数社のStartupを創業、Spruce Technologies, Inc. (DVD制作システム)を2001年Appleに売却。翌年SVJEN(NPO)設立CEO。
2010年末帰国後、2011年能登左知と株式会社カピオンを創業NEDO、大学を中心にメンター活動を推進中。また本業と共に日本の技術の商業化とグローバル展開を目指しシリコンバレーでBlue Jay Energy, Inc.を吉川絵美と創業、現在日本大手企業と共同でインドネシアでの事業化を検討中。



高井 一也

国立研究開発法人産業技術研究所
イノベーション推進本部 審議役(兼務 ベンチャー開発・技術移転センター長)
熊本大学薬学部卒、博士(薬学)、技術士(化学部門)。製薬・農業メーカーで研究開発、熊本大学で知的財産および産学連携の業務に従事。2005年4月、独立行政法人産業技術総合研究所に入所、知的財産マネジメントおよび技術移転に携わる。2015年4月より現職、産総研の研究成果の事業化を推進するため、ベンチャー創業による事業化、知的財産のライセンスによる技術移転に取り組んでいる。



東條 吉朗

日本貿易振興機構(ジェトロ) JETROサンフランシスコ所長
JETROサンフランシスコ所長。経済産業省、京都大学、経済協力開発機構(OECD)、NEDO、JETROなどで、広くイノベーションに関する経済分析・政策立案、技術開発、スタートアップ支援などに携わる。2014年8月から現職。NEDOプログラムアドバイザーを兼務し、本プログラムをはじめ国内外の多くの起業支援枠組みに参画・協力し、日米の技術シーズの事業化・グローバル展開に取り組んでいる。



春田 真

株式会社ベータカタリスト 代表取締役CEO
1992年4月、株式会社住友銀行に入行。同行退職後、2000年2月 株式会社ディー・エヌ・エーに入社、同年9月に取締役CFOに就任。2008年7月、常務取締役CFOに就任。2011年6月、取締役会長に就任。DeNAの上場を主導するとともに大手企業とのJV設立や横浜DeNAベイスターズの買収等M&Aを推進。2015年4月 株式会社ベータカタリスト設立。代表取締役就任。



松田 一敬

合同会社SARR 代表執行社員
慶応大学経済学部卒業後、山一証券(株)証券引受部を経て、同社ロンドン現地法人にて中東、アフリカ、東欧諸国等を担当する。その後、国内初の地域密着型ベンチャーキャピタルを設立。2000年6月に札幌Biz Cafeを設立、サッポロパレーのITベンチャーを支援。地元IT企業の株式公開に繋げる。2000年9月、国立大学発ベンチャー第1号(北海道大学発)の設立に関与する等、大学発ベンチャー支援の国内の草分け。製薬企業向けマイルストーン契約の締結等、知財の事業化の実績を積み、2011年4月に合同会社SARRを設立。起業家教育、ハイテクスタートアップの支援等を行っている。
INSEAD(欧州経営大学院、フランス)にてMBA取得、小樽商科大学大学院商学研究科修士課程修了(修士(商学))、北海道大学大学院医学研究科博士課程修了(医学博士)。



吉岡 恒

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)
イノベーション推進部主幹
1992年NEDO入構(地熱調査部)。その後、気候変動対策関連の業務を中心に従事し、2013年より技術開発推進部(現:イノベーション推進部)において、ベンチャーの技術開発助成、スタートアップイノベーター(SUI)等の起業支援業務を行う。北海道大学工学研究科修士課程修了。



東 博暢

株式会社日本総合研究所 戦略コンサルティング部融合戦略クラスター長
大阪府立大学大学院工学研究科(電気・情報系)修士課程修了。ソーシャルベンチャー支援やソーシャルメディアの立ち上げを経て、2006年日本総合研究所入社。民間セクターに対しては、PMI、新規事業開発戦略策定、イノベーション戦略策定支援等を、公共セクターに対しては、主に情報通信分野における社会実証実験を通じた法制度改正、ガイドライン策定支援等を実施している。官民協働(PPP)事業においては、スマートシティ戦略などの都市開発支援を実施している。現在は、ICTを軸にしたあらゆる産業との融合領域におけるインキュベーション/コンサルティング活動を実施している。その他、デジタル教科書教材協議会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会の理事、台湾経済部のシンクタンクの専任顧問および総務省等の政府機関、民間団体の研究会の委員等も歴任している。



石倉 大樹

株式会社日本医療機器開発機構 取締役

医療分野での起業・新規事業開発に特化。自ら創業メンバーとして参画した創業ベンチャー・アキュメンパイオファーマは、日本で初めて大学発の技術を事業化した会社として上市(欧州)に成功。その後は医療ITベンチャー・エムスリーにて、製薬企業及び医療機器メーカーの治験を加速化させるITサービスの新規事業開発をリード。スタンフォード大学経営学修士課程(MBA)留学中には、Medicine XのInnovation Sourcing Teamとして、mHealth及びHealth Techの startupを投資検討し、Biodesignプログラムも経験。現P5,Inc.取締役。平成27年度東京大学大学院薬学系研究科非常勤講師。



植波 剣吾

Beyond Next Ventures株式会社 取締役、パートナー

2003年に株式会社ジャフコに入社し、主にIT分野のベンチャー企業への投資業務に従事。2007年以降は、同社において、ファンド募集・設立、法務・コンプライアンス、金商業規制・当局対応、危機対応、広報・IR等の重要業務に中核メンバー・責任者として従事。ベンチャーキャピタルにおける業務全般に幅広い経験を有する。2015年3月、Beyond Next Ventures株式会社 取締役に就任、現在に至る。中央大学法学部卒。



潮 尚之

ITPC (International Technology Partnership Center) プリンシパル

松下電器産業(現パナソニック)においてITS(高度道路交通システム)をはじめとした様々なビジネス・技術分野でのグローバルな事業開発やアライアンスを推進。2002年から2005年まで米国においてベンチャー企業や大学との技術連携推進の責任者を担当。2006年に、ビジネス・コンサルタントとして独立してITPCを設立するとともに、シリコン・バレーの画像認識技術ベンチャー(piXlogic社)の一員に。現在、シリコン・バレー及び東京を拠点として、欧米の有望なベンチャー企業の発掘と日本進出のサポート、グローバルとオープン・イノベーションの志向の強い日本企業の海外動向調査や米国進出のサポートなど、インターナショナル・ビジネス・デベロップメントの専門家として活動中。また、大阪府立大学EGDEプログラムのシリコン・バレー代表及び東京大学TLOのアドバイザーも担当。画像処理、音声認識、ワイヤレス、センサー、可視光通信、クリーンテック等の幅広い分野をカバー。慶応義塾大学文学部人間科学専攻卒。



大木 美代子

Serend プリンシパル

日本IBMでグローバルマーケティングに従事後、私費留学で渡米。ビジネス修士号取得後、シリコンバレーの大小様々なIT企業で、グローバルビジネス開発に携わる。2013年1月に独立、コンサルティング会社Serend (<http://www.serendinc.com>)をスタート。アメリカ、アジアのスタートアップ、中小企業、大企業、アカデミア、政府機関などに対して、機会創出支援、戦略設定、ハンズオンのマーケティング業務のサポートなどを行っている。



岡田 朋之

Tortuga Pacific Inc. ビジネス開発担当VP/WiTricity Corporation 営業コンサルタントVP
JABI (Japan America Business Initiatives) 理事、ナビゲーター

米国モトローラにて携帯電話開発エンジニア、設計開発チームのマネージャーを経て、日本モトローラに赴任。新規R&Dプロジェクトマネージャー、次世代携帯電話技術部長、モトローラジャパンPCS事業部長、モトローラジャパン常務取締役を経て、米国に帰国。シリコンバレーにて携帯電話OSのスタートアップ、組み込みソフトウェア企業の米国社長兼役員やシリコンバレーベンチャー企業の社外取締役を経験。現在はワイヤレス、ソフトウェア、IoT、半導体関連の技術営業やビジネスコンサルタントとして活動中。シリコンバレーを拠点に、日本のスタートアップ及び中小企業の米国進出支援、大企業のグローバルマネジメント支援を行っている。アリゾナ州立大学電子工学科卒



小笠原 治

株式会社ABBALab 代表取締役

さくらインターネットの共同創業者としていち早くクラウドサービスを手掛ける。その後、シェアオフィスや飲食を手掛けながら、IT関連のスタートアップを支援する株式会社 nomadを設立。さらに2013年、IoT時代のモノづくりを支援する株式会社ABBALabを設立。株式会社DMM.comと株式会社Cerevoと 共同で、3Dプリンターサービスなどを中心にしたハードウェア・スタートアップの支援を行う「DMM.make」を設立し現在はエヴァンジェリストとして活動。本年よりさくらインターネットにフェローとして復帰。1971年京都府京都市生まれ。



加藤 幹也

株式会社環境エネルギー投資 ディレクター

2001年 イー・アクセス株式会社に新卒一期生で入社し、ブロードバンドの営業マーケティングを担当し同社上場を経験。2005年 ソフトバンクBB株式会社(ソフトバンク株式会社)入社後、コンテンツ事業部門でのIPTV事業「BBTV」サービスの企画及び著作権放送分野の渉外分野を担当。2006年 ソフトバンク株式会社(現ソフトバンクグループ株式会社)社長室兼務。2008年 6月より経済産業省商務情報政策局メディアコンテンツ課に出向し技術分野からコンテンツ産業の振興を担当。2010年 ソフトバンク株式会社に帰任し、Ustream Asia株式会社に向出しUstreamのサービス企画及び著作権処理部門を担当。2011年 東日本大震災を機にソフトバンク株式会社社長室に戻り、ソフトバンクの自然エネルギー事業及び電力小売り事業の事業推進を担当。2015年 株式会社環境エネルギー投資に入社し、電力自由化をテーマにしたベンチャーキャピタルファンドを運営。



倉本 泰信

京都大学産学連携本部 客員教授

富士通在籍時には、主にコンピュータ関連ビジネス、特に、海外市場、新規ビジネスの開拓を30年以上行ってきた。米国シリコンバレーに、1975年から4年間、1985年から8年間、計12年間駐在。その間、企業買収、新会社設立、新ファイナンスモデル開発などに関与した。2005年11月、英国南西イングランド地域開発公社に請われて、英国南西イングランド地域への新しい投資誘致モデルを策定、実施するため日本事務所の駐日代表となる。2010年4月、英国政権交代により地域経済政策の変更で日本事務所閉鎖。同年6月、東京大学政策ビジョン研究センターシニアリサッチャー(2015年5月迄)同年9月、京都大学産学連携本部客員教授、主に共同研究東京代表として企業との共同研究、共同研究講座の推進を担当している。また大学での講座はイノベーションデザイン、マネージメントを担当。講師歴は立命館大学、一橋大学で日本IT産業のサバイバル戦略等も担当した。



虞都 韻

株式会社日本医療機器開発機構 取締役

IT・Web分野でのマーケティングを含む新規事業開発全般に特化。住友商事株式会社を経てエムスリー株式会社にてWebマーケティング全般を経験。2011年より株式会社リブセンスにて新規事業責任者を担当。その後もITベンチャーなどで中心メンバーとして数多くのWebサービス立ち上げを担当しており、創業期の企業から大企業に至るまでさまざまな組織の規模・状況に応じたIT・Web関連の新規事業開発の経験が強み。



坂本 大

ブレインアンドキャピタルUSA シニアパートナー

27年の駐米経験を通して、環太平洋地域における事業戦略構築、ベンチャー投資、ビジネスインキュベーション、クロスボーダーM&A・事業提携などに取り組み。NECのグループヴァイスプレジデントとして、ITサービス分野のコポレートベンチャーファンド設立などの業務に従事。Niteoパートナーズ役員、オープングループ役員、エンタープライズネットワーク、ヴィディエントシステムの役員、そしてサステナブルシリコンバレー(NPO)の会長を歴任。現在エコプレクスジャパンの取締役会長、ブレインアンドキャピタルUSAのシニアパートナー、そしてサンタクララ大学院ポードアドバイザー(Master of Science - Global Innovation)を務めながらシリコンバレーにてベンチャー投資やスタートアップの事業支援に従事。



隅田 剣生

株式会社産学連携研究所 代表取締役

プラント機器メーカーでプロジェクト営業、その後、NEDO、大阪大学、文部科学省等の産学官連携コーディネーターを担当し、現職。大阪府立大学総合科学部卒、神戸大学大学院海事科学研究科修了。



瀬川 秀樹

クリエイブル 代表

(株)リコーに32年半勤め、光ディスクの精密加工技術者、光ディスクの国際標準化委員会(ISO)の日本代表団メンバー、技術企画、シリコンバレーにおけるCVC(Corporate Venture Capital)と新規事業の立ち上げ/撤退、新規事業開発センター副所長、未来技術総合研究センター所長などを歴任。常に新しいコトや多くの新規事業の立ち上げに挑戦し続けてきた。近年では、これからの世界にとって非常に重要であるBOP(Base of the Pyramid(世界の貧困層))のprojectを立ち上げ、インドの農村部での活動も行ってきた。2014年9月に(株)リコーを退職し、「新規事業のコンサルティング」「若手育成」などを行うCreable(クリエイブル)を開設。事業戦略策定のメンタリングや多くの講演・研修・Workshop等を手掛けている。



竹居 邦彦

ダブル・スコープ株式会社 取締役

1986年中央大学経済学部卒業、青山学院大学国際ビジネス専攻・ファイナンス課程終了、横浜銀行に入行、支店勤務を経て証券業務に携わる。2001年より独立系ベンチャーキャピタルでインベストメントマネージャーとしてハンズオン型投資業務に従事。投資分野は素材、バイオ、半導体関連などグローバル展開を目指すテクノロジー系ベンチャー企業など。ダブル・スコープ株式会社(WS)は2005年リチウムイオンバッテリー用セパレーターの開発・製造を目的に設立。WSは投資先の1社、事業構想段階から計画に参画、会社設立と同時に取締役に就任。WSは2011年12月東証マザーズ上場、2011年3月より取締役・CFOに就任、現在に至る。テクノロジー系ベンチャーの成長に貢献できれば幸いです。



田所 雅之

Fenox Venture Capital

日本と米国シリコンバレーで合わせて、これまで4社を起業してきたシリリアルアントレプレナー。現在は、Skillhubというスタートアップを経営しながら、Fenox VCのパートナーとして、日本、東南アジア地域の投資を担当。Pioneerというヨーロッパのスタートアップメディア・イベント運営団体のアジア地区のアドバイザー。”成功するスタートアップの作り方”という起業家向けの1日レクチャーを毎月開催(日本語と英語の両方)。



田中 浩也
慶應義塾大学環境情報学部 准教授

1975年札幌市生まれ。2003年東京大学工学系研究科社会基盤工学専攻修了。博士(工学)。2005年に慶應義塾大学環境情報学部(SFC)専任講師。2008年より同准教授。2010年マサチューセッツ工科大学建築学部客員研究員。2011年に「ファブラボ鎌倉」を設立。2012年慶應義塾大学SFC研究所「ソーシャルアプリケーションラボ」設立。デジタルアプリケーションの可能性を「技術」と「社会」の両面から研究・実践している。第9回世界ファブラボ会議(横浜)実行委員長(2013)、経済産業省「フロンティアメイカース育成事業」プロジェクトマネージャ(2014)、総務省「ファブ社会の基盤設計に関する検討会」座長(2015)などを歴任。2015年より文部科学省COI「感性とデジタル製造を直結し、生活者の創造性を拡張するファブ地域社会創造拠点」慶應グループ研究リーダー。



鶴下 直也
JN Biosciences LLC Managing Partner

1984年7月 京都大学大学院理学研究科終了、理学博士号を授与される
1984年8月～1987年11月 スタンフォード大学およびカリフォルニア大学にて博士研究員 抗体遺伝子の転写調節および組換え機構の研究
1987年12月～1991年8月 京都大学ウイルス研究所助手 抗体遺伝子の発現調節機構の研究
1991年9月～2005年3月 蛋白質工学部門ディレクター Protein Design Labs, Inc. (現、PDL BioPharma, Inc.) 抗体医薬の研究開発
2005年4月～現在 バイオテック・コンサルタント 日米両国の製薬企業にてタンパク質医薬研究開発への助言
2005年11月～現在 Cofounder & Managing Partner JN Biosciences LLC (Mountain View, CA, U.S.A.) 新規抗体工学技術と抗体医薬の研究開発



中嶋 泰雄
東北大学 特任准教授

東北大学研究推進本部特任准教授。2013年から東北大学にて東京大学・京都大学・大阪大学・東北大学の技術シーズに特化したテクノロジーベンチャー育成を目指す新たな官民ファンド(文部科学省大学出資事業)の企画制度化を担当。それ以前は、日立製作所のコーポレートベンチャーキャピタルにて、ベンチャーキャピタル子会社を設立し、パートナーとしてIT、材料デバイス分野等に投資。スタートアップから上場ベンチャーの投資先企業の運営やアライアンス構築など事業開発をハンズオン支援。日立グループで事業やシステム企画、PMI等。東京大学大学院工学系研究科テクノロジーマネジメントコース派遣。経済産業省のベンチャー関連の委員、中小・ベンチャー企業支援や技術移転の団体などのアドバイザー等として、オープンイノベーション、エコシステム構築、起業家支援、教育等を推進。法政大学経卒。



秦 充洋
株式会社ミレニアムパートナーズ 代表取締役

ボストンコンサルティンググループ(BCG)にてプロジェクトマネジャーとして通信、電力、自動車など幅広いプロジェクトを指揮、また起業家としてベンチャー企業の創業・経営・上場経験を持つ。現在は起業家育成・大企業の新規事業支援など、幅広く活躍。一橋大学大学院MBAコース(HMBA)講師、グロービス経営大学院講師。著書「プロ直伝!成功する事業計画書のつくり方」(ナツメ社、2015年)



林 千晶
株式会社ロフトワーク 代表取締役

1971年生。アラブ首長国育ち。2000年にロフトワークを起業。Webデザイン、ビジネスデザイン、コミュニティデザイン、空間デザインなど、ロフトワークが手がけるプロジェクトは年間530件を超える。書籍「シェアをデザインする」「Webプロジェクトマネジメント標準」「グローバル・プロジェクトマネジメント」などを執筆。2015年4月、森林再生とものづくりを通じて地域産業創出を目指す「株式会社飛驒の森でクマは踊る」を設立、代表取締役社長に就任。



林 光洋
株式会社ベータカタリスト 取締役

1994年4月、藤田観光株式会社に入社。2003年12月に株式会社ディー・エヌ・エーに入社。子会社社長を経て、2007年執行役員EC事業本部長に就任。大手企業とのJV設立や協業を手かけ黒字化まで推進。2013年3月に同社を退社後、ベンチャーや大手企業の各種プロジェクトを支援。2015年4月株式会社ベータカタリスト取締役に就任。



本藤 孝
FinTech GlobalCapital, LLC 代表パートナー

アンダーセンコンサルティング(現アクセンチュア)にて、IT及びマネージメントコンサルティングに従事。その後、NIFベンチャーズ(現大和企業投資)でヨーロッパ、イスラエルへのベンチャー投資を行う事業部の立ち上げメンバーとして参画する。フランスのベンチャーキャピタルへの出向を含め、多くのベンチャー投資を実施。自社が上場し、その後合併するなどを経験し独立。ベンチャーキャピタルのFGCを創設し、55百万ドル(約65億円)のファンドを組成。同社の代表パートナーに就任し、国内外への投資に関わり、投資先の取締役を歴任。シード段階からの出資も手掛け、投資先数社のファウンダーメンバーとして創業し経営に参画。FGCとしての活動と共に、主に大学発(主に九州エリア)の案件に投資を行うQB Capitalを創設し、約30億円のベンチャーファンドを組成。同社の代表パートナーに就任。



前田 信敏
ウエルインベストメント株式会社 投資部長

早稲田大学政治経済学部経済学科卒業、早稲田大学大学院商学研究科ビジネス専攻修了(MBA)。大和企業投資(株)勤務等を経て、2008年よりウエルインベストメント(株)投資部長。2009年より早稲田大学アントレプレナー研究会理事。2012年より文部科学省・大学発新産業創出拠点プロジェクト事業プロモーター。2013年より早稲田大学インキュベーションセンターシニアコンサルタント。大学発ベンチャー企業をはじめとする、高い技術力や斬新なビジネスモデルを持つアーリーステージのベンチャー企業に対する支援を長年手がけている。



南方 郁夫
クラウド・テン株式会社 代表取締役

大阪大学 基礎工学部 情報工学研究科修了。パナソニックで約30年間勤務。その間、本社R&D部門においてソフトウェアの研究・開発の責任者としてパソコン、EWS、ワープロ、デジタルTV、携帯電話などの事業立ち上げを主導。また、国際標準化、コンソーシアムの創設やボードメンバーの経験も多数(DLNA、CE Linux Forum、Java Community Process、Marlin DRMなど)過去3回、合計8年間にわたってシリコンバレーでの駐在経験。①UCパークレー EECS 客員研究員②パークレーでの人脈がきっかけとなってシリコンバレーのスタートアップとEWS向けソフトウェアの共同開発③米国パナソニックR&D会社のプレジデント。その間に、シリコンバレーでクラウドを活用したオンラインゲーミング事業を行う社内ベンチャーを起業2011年末にパナソニックを退職してクラウド・テン株式会社を創業。シリコンバレーの経験と人脈を活かして日本企業の新規事業創出やシリコンバレーの企業の日本戦略のコンサルティングを行うとともに、独自のクラウドサービスの開発、事業化に取り組んでいる。



三木 寛文
MK Management, Inc. 代表取締役

早稲田大学商学部卒業。モバイルインターネット領域の成長ベンチャー数社において、約15年の事業開発経験を持つ。特に、グリー株式会社では初期メンバーとして入社、GREEモバイル化、大手通信事業者や各種コンテンツ企業との提携、広告宣伝部やゲームプラットフォーム事業の立ち上げ、中国事業統括など、数多くの新規事業開発、提携案件を担当する。現在はインターネット領域全般のベンチャー支援を手がけ、数十社の経営アドバイザーを歴任。事業開発や営業戦略策定、資金調達アドバイス、人事組織設計のサポート、提携先の紹介や採用支援などをハンズオンで行う。また、Digital Health Meetupアドバイザーとして、医療/ヘルスケア領域の技術ベンチャーのビジネス支援も行う。



八重樫 馨
i-BuC Ltd. President & CEO

ドイツ系化学企業、Hoechst (現 医薬部門は、Sanofi社、スペシャリティケミカルは、Clariant社、基礎化学は、Celanese社)で、新事業開発、半導体製造用関連機器事業の立ち上げ、日本企業との共同事業設立等を行う。リチウム電池用セパレーター、人工心臓用中空糸、水処理用脱気膜の3事業部門を持つCelgard Inc. (Polypore International Inc.を経て、旭化成に売却。)のマネジメント・チームとして経営に参画。日本人セルガード株式会社代表取締役社長兼務。同グループの世界最大の鉛電池用セパレーター企業Daramic Inc. のアジア・太平洋統括や、同グループ中国現地法人Battery Separator Shanghai Co., Ltd. の取締役を兼務。シリコンバレーのナノテック企業NanoGram Corporationの上席副社長および同日本法人ナノグラム株式会社の代表取締役社長に就任。同社の帯人株式会社への売却後、帯人グループのメンバーとして同社の経営に携わる。事業創出やベンチャー起業支援による産業創成の為に、仲間と共にアイ・バック株式会社を設立する。



山本 辰久
ボードレス・プランニング株式会社 代表取締役

京都大学大学院工学研究科交通土木工学専攻修了。ボストン大学大学院都市計画学科修了(MCP)。横浜市役所都市計画局勤務の後、株式会社日本総合研究所総合研究部門で公的機関の主要計画立案・改革支援、企業の中期経営計画策定などとともに、ビジネスモデル特許申請も経験。この間、神戸大学大学院経営学研究科助教授として出向。2011年に起業し、境界にこだわらないボードレスな視点から、医療、運輸、食品、製造、環境関連業界をはじめ、経営幹部・管理職を対象とした人材育成・教育研修とともに、事業計画立案支援、海外進出支援にも取り組む。環境NGOカーボンシンク理事。



横倉 隆
東京理科大学 常務理事

'71年東京理科大学理学部物理学科卒。東京光学機械(株)(現(株)トプコン)入社。光学技術者として民生、産業、医療、測量向けの様々な光学機器の研究開発を行った。その後は開発マネージャーとしてドイツや米国の大学との共同研究を担当。執行役員就任後、技術本部長、産業機器と医療機器の事業部長を歴任し、'07年より取締役社長。国内外でのM&Aや産学連携を手掛けた。'11年に相談役。現在は特別アドバイザー。同年より東京理科大学常任理事。その他として東商議員としてものづくり推進委員会共同委員長。大学では産学連携と収益事業を担当しているが今後VCを立ち上げベンチャー支援に取り組んでいく予定。

株式会社 Eyes, JAPAN

APSAM (Automated Pathological Service by Applied Mathematics)

事業プラン名:
唾液マーカーによる非侵襲的ながん罹患リスクの検出技術

代表者: 山寺 純(株式会社 Eyes, JAPAN)

協力メンバー: 工藤 憲一, 網藤 公一郎, 薄井 美里 (株式会社 Eyes, JAPAN)

協力メンバー: 山口 昌樹(国立大学法人 信州大学)

連絡先: nedotcp@nowhere.co.jp

社会へのインパクト(事業のスケールビリティ、社会にもたらす変革) (Social Impact)

- がんの不安を抱えるリスク層に対して、早期発見の安心感を提供
- サイトカイン分析装置の小型化、検体採取キットの宅配等により、がんの検査が身近で気軽なものに
- 学術論文に基づくデータベースの自動生成技術は他の学術分野にも応用可能
- 将来的には医師の診断を補助

今後の技術進化と開発計画 (助成金、リスクマネーの導入) (Technology Roadmap)

- 2017年3月を目標時点とする第6次ふくしま医療福祉機器開発事業費補助金(約1億円/2年)に採択された
- 薬局チェーンを持つ大手小売企業が協議会に参画
- 事業化する際には新会社も想定
- 中期的には一般生活者に対するがんの早期発見ツールとして、DTCでの提供も視野

事業化構想(解決したい問題、攻略市場、具体的商品・サービス、ビジネスモデル、事業としての新規性) (Business)

- 日本における死因の1位はがん
- まずは医師の管理下において、がん治療後の予後管理を主眼に置く
- がんの再発・転移に対する不安やストレスもがんの原因
- 薬局、歯科診療所などで自己検体検査サービスを展開
- 1万円/回 程度の利用者負担
- 30分以内にスマートフォン等で結果(事実、一般的知識、受診勧奨コメント)を閲覧可能
- 簡易、安価、高頻度の繰り返し検査が可能

シーズ技術の概要(新規性・革新性) (Technology)

- がんと唾液中のサイトカインとの関連性に着目
- 非侵襲・迅速・安価に罹患部位の検出が可能な自己検体測定キット(信州大学で開発済み、がん専門研究機関で臨床評価予定)
- 21万件的学術論文から機械学習でサイトカインの定量データベースを自動生成し、アルゴリズムで受診勧奨(Eyes, JAPANで開発中)
- 遺伝子検査(SNPs検査、シーケンス解析)では現在のがん罹患状況を知ることはできない。
- 線虫、アミノ酸、マイクロRNA等を活用した類似技術と比較して、**非侵襲、部位の特定、迅速・安価**という3条件を満たすものは本事業のみ

事業プラン名: 数学的手法を用いた病理画像診断技術

代表者: 中根 和昭(大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻)

協力メンバー: 韓 徹(大阪大学基礎工学部)

協力メンバー: Priya Singh(大阪大学工学部)

連絡先: k-nakane@sahs.med.osaka-u.ac.jp

社会へのインパクト

国内のがん罹患者数 **98.1万人(大腸がんが最も多い)**

国内の病理医 **2,259人(ひとり病理医施設は約半分)**

➡ **病理医の過労働が深刻化**

病理標本のスクリーニングに使うことで病理医の仕事を軽減する!

シーズ技術の概要(新規性・革新性)

ホモロジー法という数学的手法によりがん特有の性質である接触阻害の喪失を定量評価できる。➔がん診断のスクリーニング

PCT出願済(JP,US) EUは申請中

- 感度は99.9%
- 5秒で診断可能
- 一般のPCで操作可能

今後の技術進化と開発計画 (助成金、リスクマネーの導入)

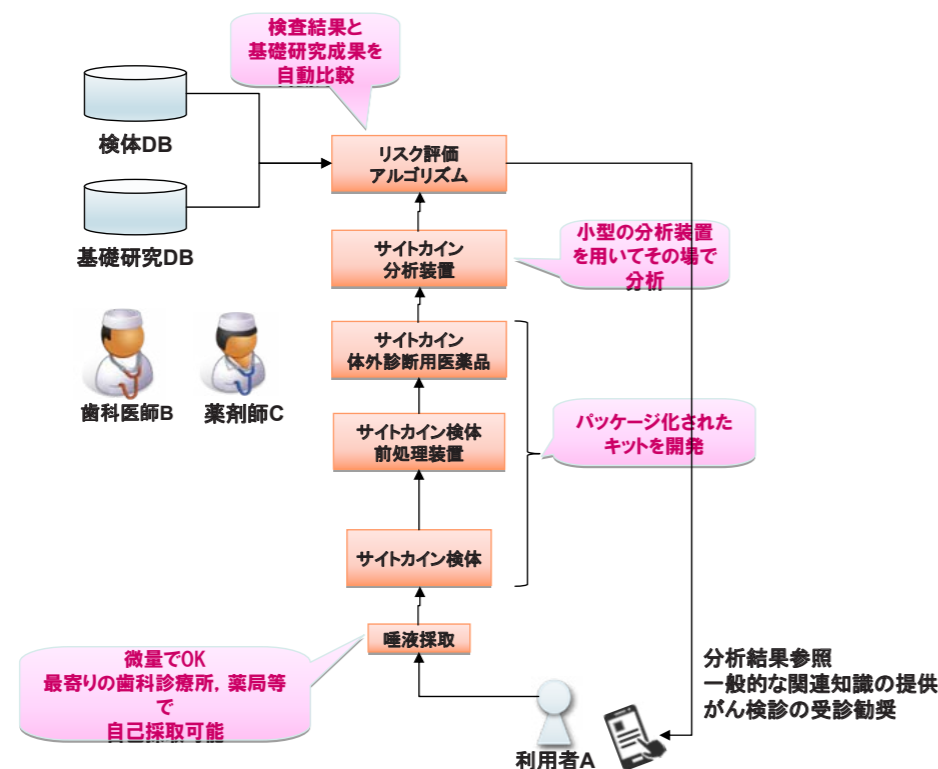
事業化構想 (日本国内について)

A) クラウドサービス
対象:ひとり病理医

B) ワンストップサービス
対象:病理医不在 医療機関

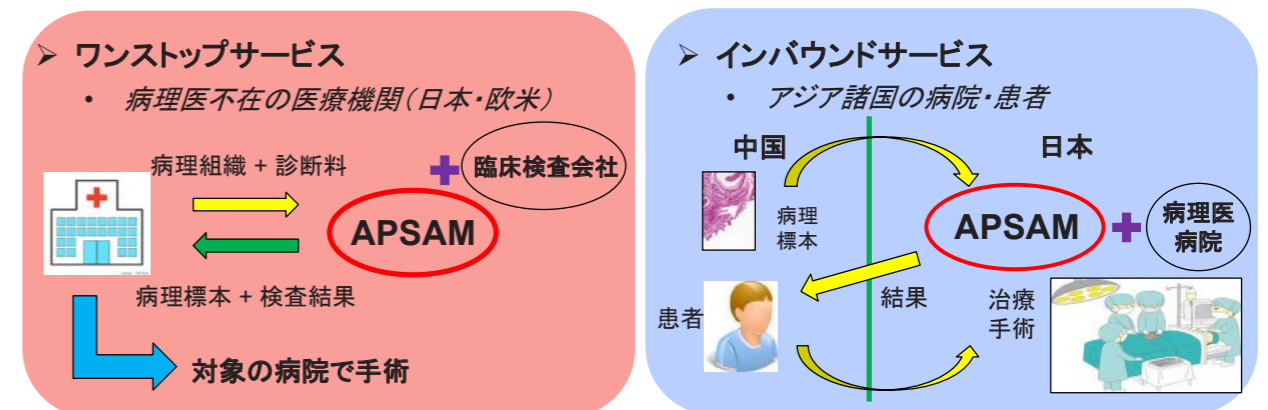
サービスモデル構想

- 唾液サイトカインの分析結果を30分以内にスマートフォン等で閲覧可能。
- 一般的な関連知識を提供するとともに、がん検診の受診を勧奨。

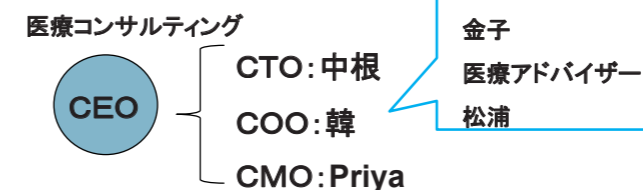


海外への事業展開

- 欧米は食生活が原因で**大腸がん罹患者数が多い**。➔欧米の臨床検査会社と組んでワンストップサービスを展開
- 中国、アジア諸国への**遠隔診断サービス**。➔中国の医療施設と提携し、治療は日本でを行うインバウンドサービス。



経営組織



今後の予定

- イギリス・ドイツに訪問。(大学へ)
- 中国とベトナムに訪問。(病院へ)
- アメリカに訪問。

A Protein Synthesis System 3.0 (PSST)

Kanda Robotics

事業プラン名： A Protein Synthesis System 3.0

代表者： 福田雄一（名古屋大学 知財・移転グループ）
 協力メンバー： 多田安臣（名古屋大学 遺伝子実験施設 教授）
 協力メンバー： 野元美佳（名古屋大学 多田研究室所属）
 連絡先： e-mail: yfukuda@aip.nagoya-u.ac.jp

シーズ技術の概要

新規性：
 無細胞タンパク質合成系における
 * 特殊翻訳促進剤の開発
 * 最適化された小麦胚芽抽出液

革新性：
 既存タンパク質合成系に対し
 * 難合成・合成不可能だった多種類のタンパク質が**確実に**合成可能
 * 難合成・合成不可能だった多種類のタンパク質が**簡便・容易・低コスト**で合成可能となった
 ▷ 2週間の工程が1日に
 * 合成タンパク質の**修飾性が格段に高まった**
 ▷ アッセイの自由度が2倍に

事業化構想

顧客ペイン：
 スクリーニングでの標的タンパク質の合成で時間、コストが甚大

攻略市場：
 遺伝子・タンパク質研究開発現場、
 農医創薬スクリーニング現場

具体的商品と事業：

創業期
 * タンパク質合成キットの外販
 * 認定ラボへのキット無償供与
 ▷ 知財権利の共有

成長期
 * 難合成タンパク質ライブラリのオークションとライセンス収入
 ▷ 価格交渉力維持

事業のスケラビリティ

スケールアップ：
 * たんぱく質収量の向上
 * 分泌タンパク質合成能の確立

スケールアウト：
 * ライブラリ販売から創薬支援へ
 * 既知ホルモン大量合成法確立と導出、販売
 * 生物種拡大

社会にもたらす変革

* スクリーニングの短時間化による新薬候補の増大、難病の克服
 * 農業開発貢献を通じた食糧増産

今後の技術進化と開発計画

1期：SUIから3,500万円
 ▷ タンパク質合成キット販売開始

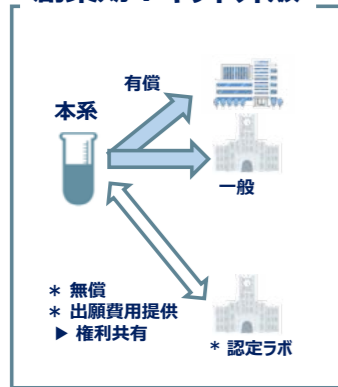
2期～3期：VCから3億円
 ▷ 難合成実績積上げ（人員増強）
 タンパク質ライブラリ販売開始
 ▷ 合成効率向上（設備導入）
 自動超高速スクリーニングサービス開始

コネクティッドアクチュエータによる八百万ロボット社会の実現

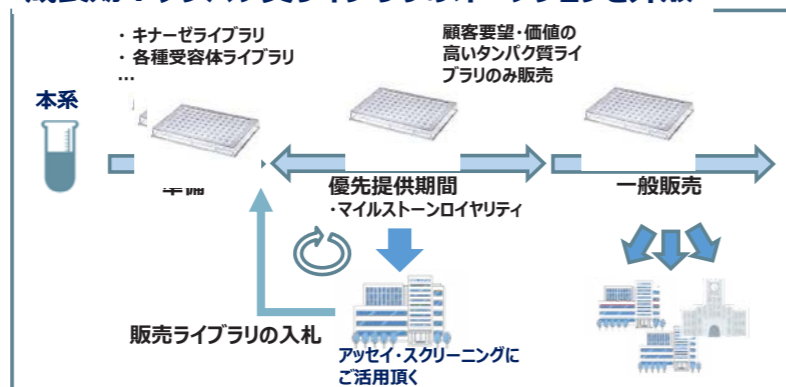
新たなロボットを創造、開発するのではなく、既存の生活、業務へとロボティクスを導入可能とする。そのために開発要素の高いモーター、制御、インターフェイスをパッケージングし導入ハードルを下げた。次はロボティクスの導入、展開を進め、企業とコラボレーションを行い、ロボット社会を具現化していく。

事業概要

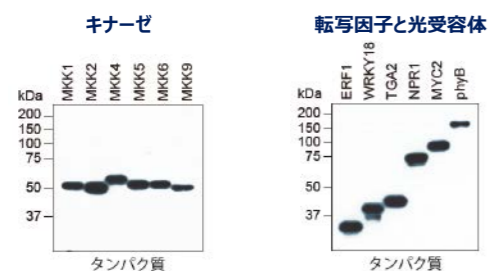
創業期：キット外販



成長期：タンパク質ライブラリのオークションと外販



本系で合成した難合成タンパク質の例



本系の51カ所の共同研究先



コグニティ株式会社

サイマックス株式会社

コグニティ株式会社
www.cognitee.com
info@cognitee.com

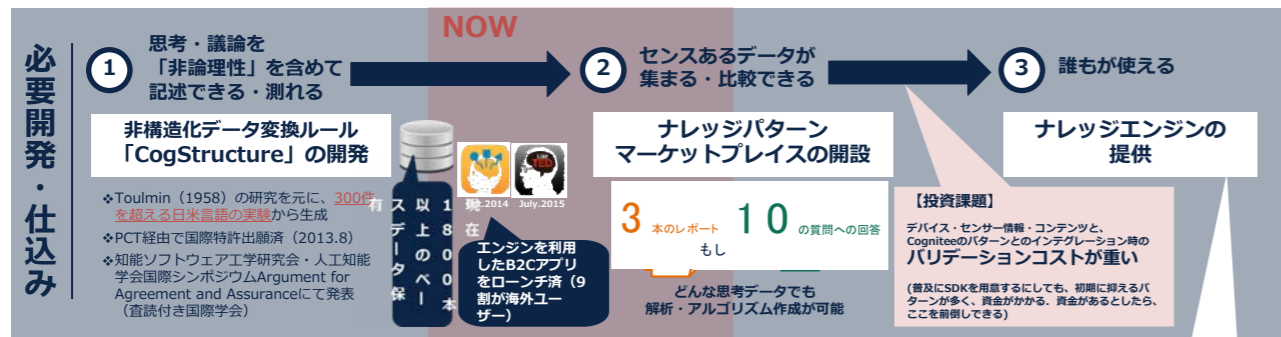
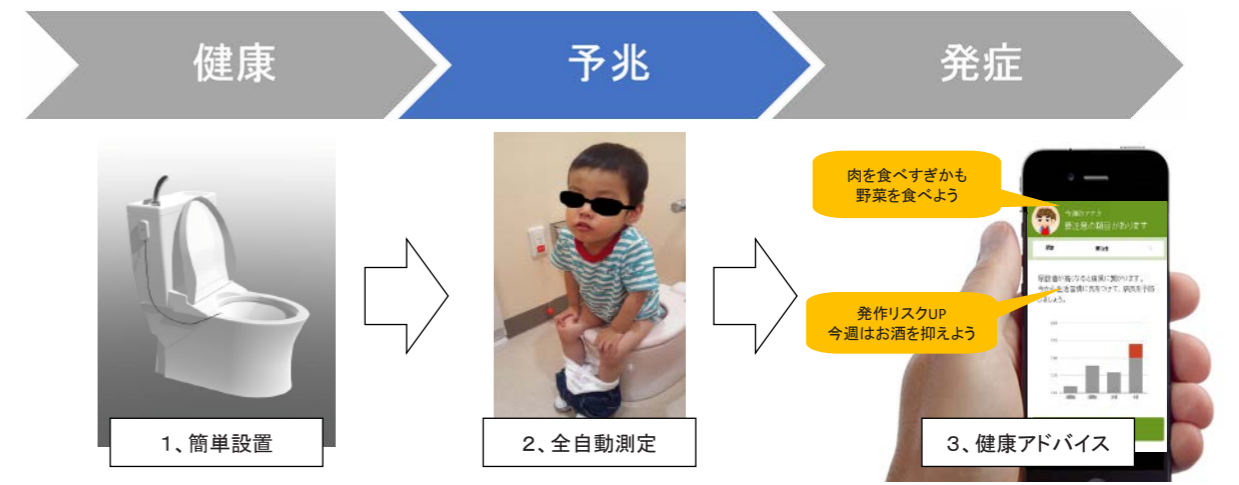
意志決定時の認知限界を技術の力で取り除く

設立 2013年3月28日
資本金 3,070万円
役員 代表取締役 河野 理愛、取締役 木村 徹也
従業員 14名 (パート・バイト含む)
〒140-0005 東京都品川区広町1丁目5-28-302
TEL: 03-4212-8445
所在地
担当弁護士 GVA弁護士事務所
担当会計士 山守公認会計士事務所
知的財産 芦田・木村国際特許事務所
共同研究先 電気通信大学 情報システム学研究所 田中研究室 日本大学 理工学部応用情報工学科 松野研究所
◆平成24年度第3回海外需要獲得型起業・創業補助金(経済産業省)採択事業
◆2015年3月 電気通信大学との共同研究が IPA情報処理推進機構の研究支援事業に採択
◆2015年4月 アクセラレータプログラム Women Startup Lab (Mejo Park, CA) 卒業



サイマックス株式会社 SYMAX

VISION 誰もが健康不安なく、夢や想いの実現に邁進できる社会へ
事業概要:いつも通り生活するだけで病気の予兆が分かるサービス



技術ポジショニング

非言語解析 vs 言語解析

市場: コグニティブコンピューティング市場 by MarketsandMarkets Analysis(201)

2019年WW 1.5兆円市場

必要資金・売上想定

(Mil. Yen)	2016	2017	2018	2019	2020
Product/Development	◆ B2B System (Package/Subscription) ◆ Tailor-made software	◆ Marketplace ◆ B2B Backend (License)	◆ Open API	◆ Platform / SDK (B2B2C)	
Sales	36	110	400	1,200	5,400
Cost	37	80	160	1,500	4,200
Market Value	Fund raising 20million Yen	200mil-Yen		Fund raising 330million Yen	1bil-Yen

次年度以降の競争力強化のため人材必要
2017-18のPlatform状況で判断
前倒しによる開発加速
PF化・B2C強化のため、開発員・人員必要

ニーズ 広告以上に訴求したい、「即断即決」と「継続利用」を両立したい

ビジネスモデル エンジン提供・アプリケーションのSDK提供

対象 サービス・コンテンツプロバイダ (実店舗なども)

コグニティが提供する Platform・エンジン

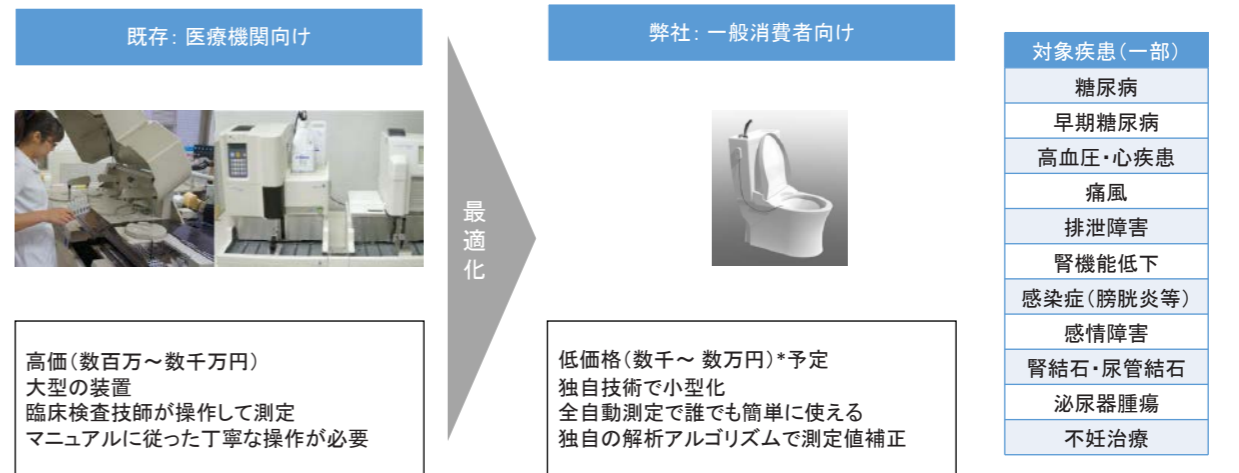
精度は良いのに出すべき情報がない (コンテンツプロバイダ開拓までできない)

エンジンのライセンス提供 (例: Nuanceの Dragon Detect/Siri)

自己診断型のプレミアム会員サービス (例: 占いや診断)

End-User

サイマックス株式会社 SYMAX



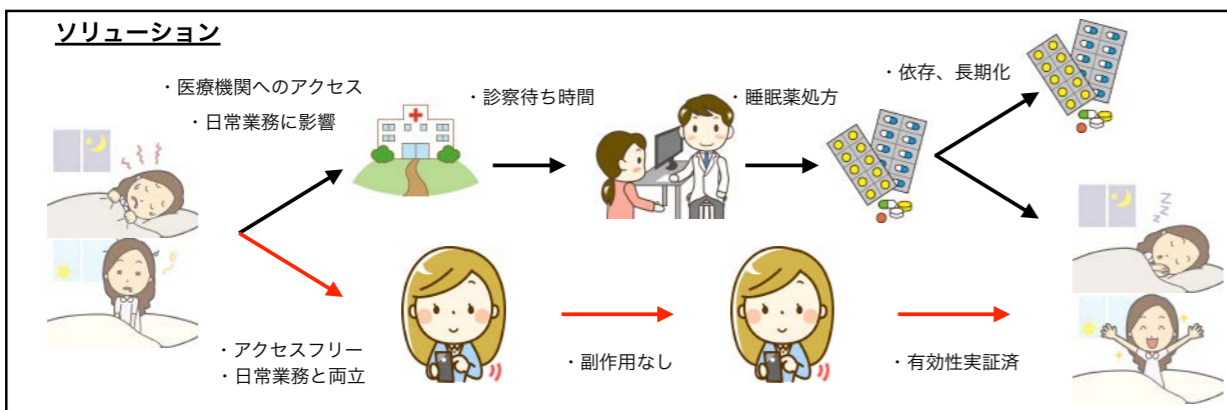
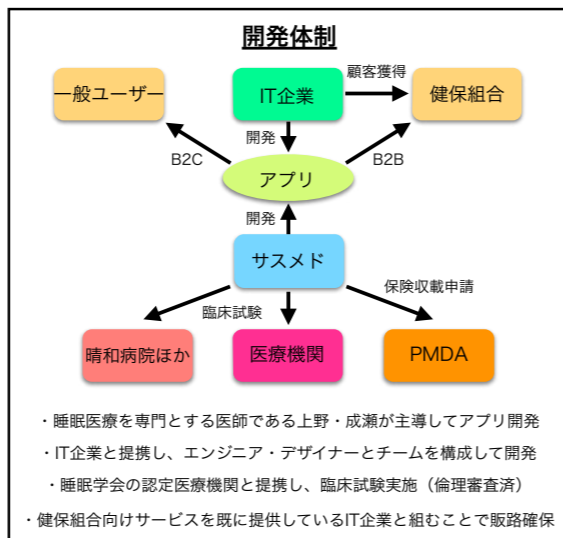
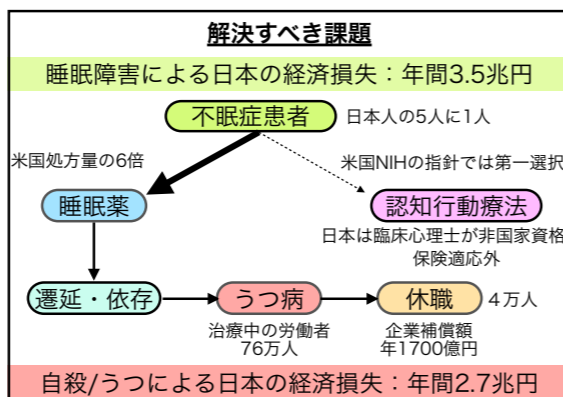
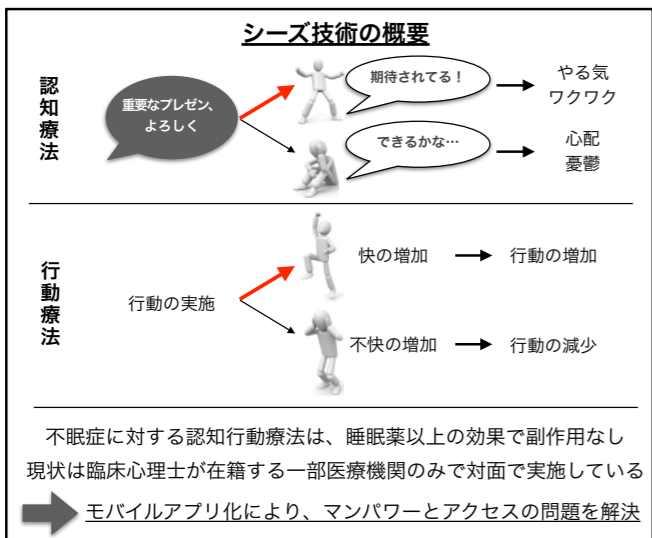
誰でも簡単に使えるトイレ取付型のデバイスへ

サスメド合同会社

事業プラン名：臨床データに基づく睡眠改善
ソフトウェアアプリケーションの事業化

SUSMED 上野太郎 (サスメド合同会社 代表 医師)
Sustainable Medicine 連絡先：taro.ueno@susmed.co.jp

ミッション
マンパワーに依存しない不眠症に対する認知行動療法の実現
↓
不眠症、うつ病による経済損失の解消



ChiCaRo

事業プラン名：遠距離保育支援ロボット「ChiCaRo」
代表者：阿部 香澄 (所属 電気通信大学ChiCaRoチーム)
メンバー：池田 成満
連絡先：k_abe@apple.ee.uec.ac.jp



シーズ技術の概要 (新規性) (Technology)
遠距離保育支援ロボット

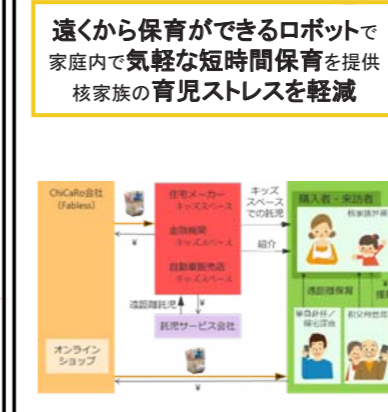


電気通信大学 長井研究室
⇒ <子どもと遊ぶロボットの研究>
知見に基づき

操作者の腕に依らず
子どもの興味をひける

- ・遊び支援機能
- ・身体性 (手、存在感)
- ・目線の高さ

事業化構想 (解決したい問題、ビジネスモデル) (Business)



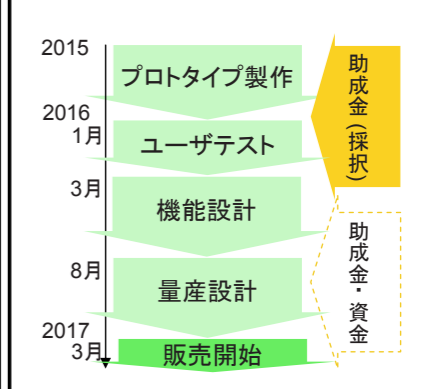
社会へのインパクト (社会にもたらす変革) (Social Impact)

2000年頃 共働き > 専業主婦
逆転 ひとりっ子 > 二人兄弟

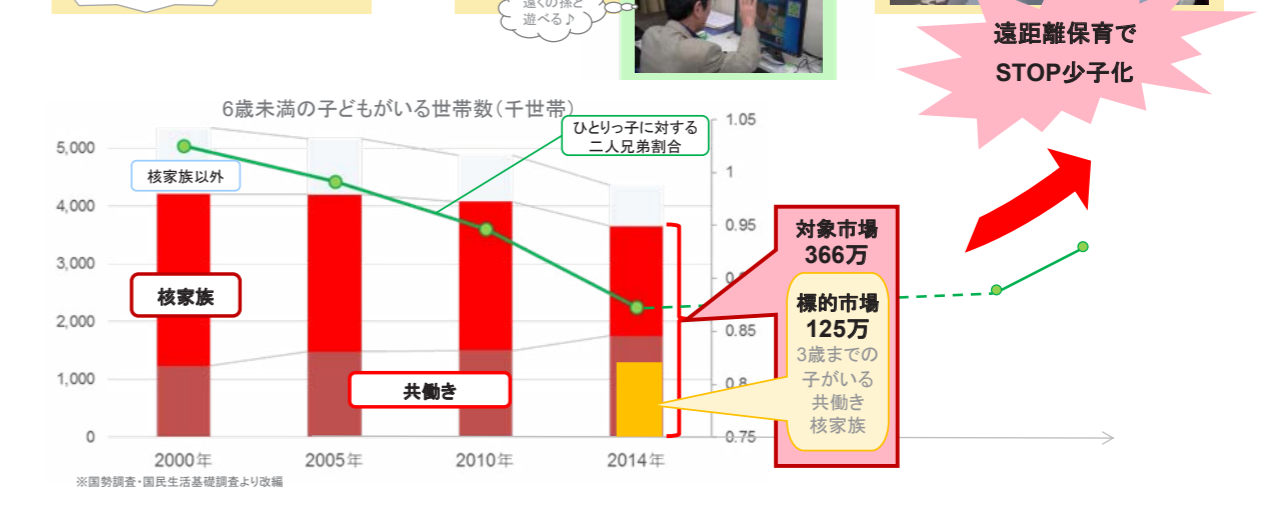


未就学児をもつ核家族366万世帯
子育て楽な社会 STOP少子化

今後の開発計画 (Technology Roadmap)



ソリューション [遠距離保育]



Hero Egg

事業プラン名: 次世代パーソナルモビリティHero Legの販売
 代表者: 鈴木 智也(所属: 崇城大学)
 協力メンバー: 後藤 みどり/安部 光法
 佐渡山 裕介
 連絡先: midorigoto12@gmail.com



SOJO Ventures
 Innovation for Entrepreneurs
<http://www.sojo-v.com/>

Technology

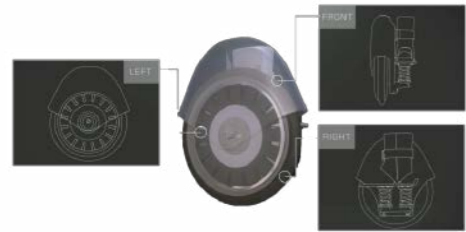
HeroLegは両足に装着し、重心移動により、**ジャイロセンサー**が動き、モーターの回転数が上昇し加速します。

また、**ホイールインモーター**を採用することにより、パワフルでスマートな走りを実現しました。

機体の安定性に関しては、内部に**ジャイロスコop**を搭載することによって倒れにくく、大幅にバランスが良くなっています。

両手が自由に使えるため、様々な動作に応用することができます。

電力を活用して動作し、燃料を一切使わないので、環境負荷が低く、地球にやさしい。

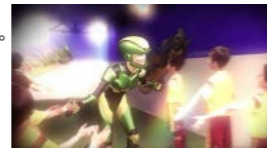


Business

スポーツ展開

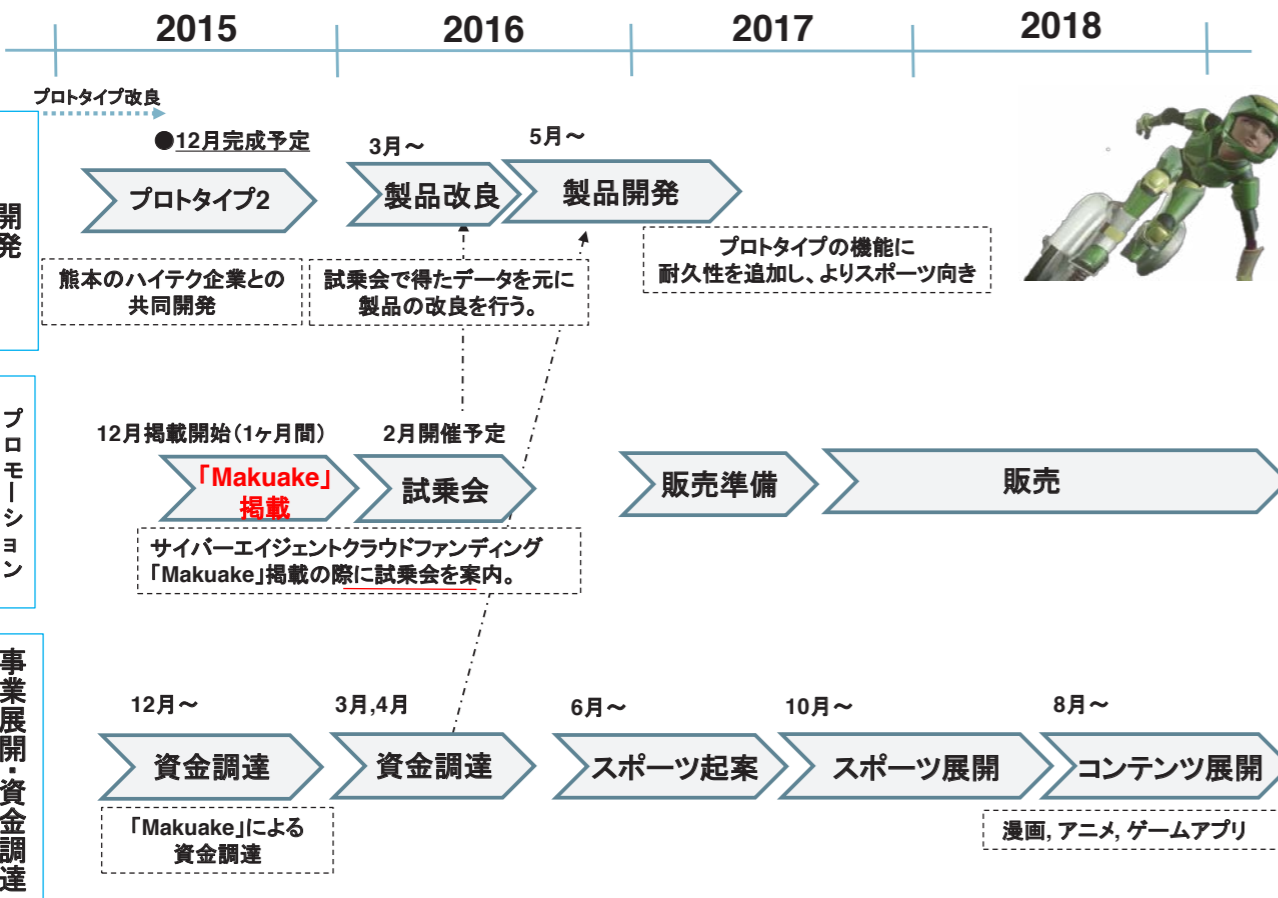
私たちはHeroLegを使ったエクストリームスポーツを提案します。エクストリームスポーツは過激さが魅力のスポーツの総称で、ファッション、音楽といった若者文化にも大きな影響力を持っています。

Hero Legの機能を活かし、レースやパフォーマンスを提案します。イベントや試乗会を通して多くの人にHero Leg体験を届けたい。



コンテンツ展開

HeroLegのスポーツ展開と並行して、放送局・映画会社・広告代理店・商社・出版社・新聞社・レコード会社・玩具メーカー・インターネット関連会社などに投資を呼びかけ、小説、漫画、アニメ、ゲーム、音楽CD、テレビドラマ、映画などのコンテンツビジネス、ファッション、フィギュア、プラモデルなどのライセンスビジネスを展開します。

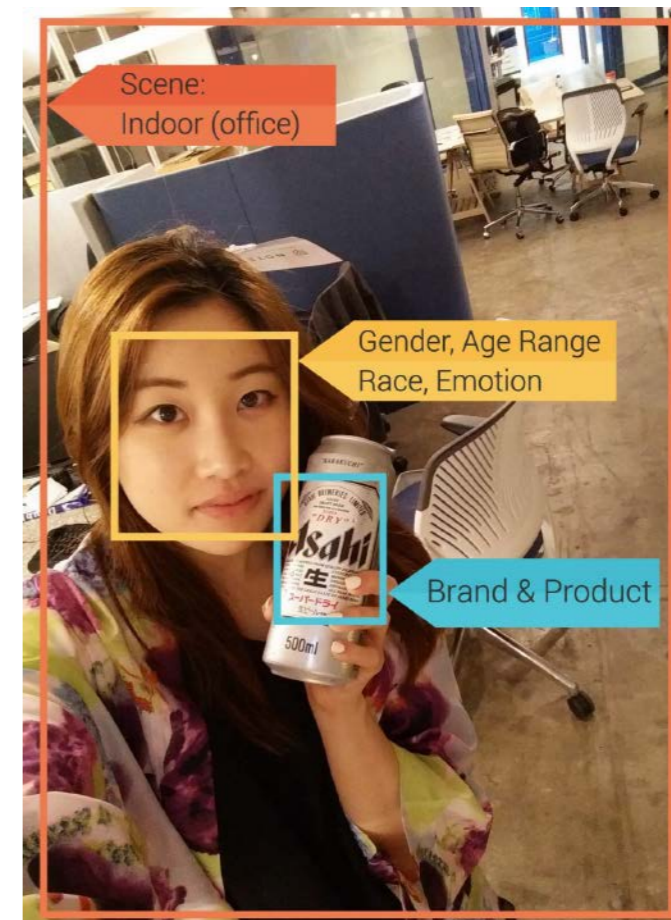


Brand Pit

BRAND PIT

Researching Social Media with
 Image Recognition

Mayuko YAMAURA
 mya@brand-pit.com



Venom Technologies

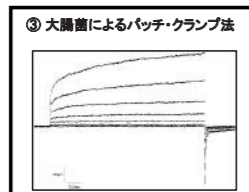
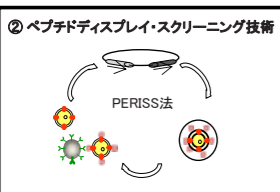
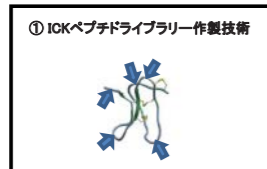
Venom Technologies
 代表者: 木村 忠史(産業技術総合研究所)
 連絡先: 029-861-6667
 E-mail: tadashi.kimura@aist.go.jp



Technology
 シーズ技術の概要

従来不可能であったハイスループットな
 イオンチャンネル創薬を可能にする技術

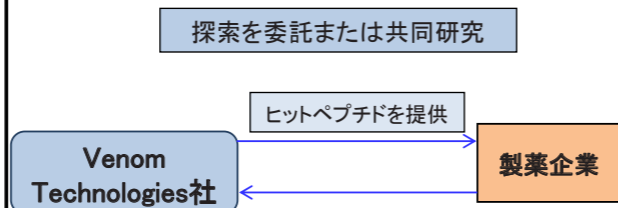
天然の分子設計を利用



特許第4742345号
 特許第5019442号
 特許第5717143号

特許第5787298号 迅速なスクリーニング ノウハウ

Business
 事業化構想



得られる対価: 契約一時金、研究支援金、マイルストーン収入(ヒットペプチド提供時、開発決定時、臨床試験開始時等)、ロイヤリティ収入

医薬品市場規模	<ul style="list-style-type: none"> 世界110兆円 日本10兆円超
イオンチャンネル関連市場規模	<ul style="list-style-type: none"> 既存1.4兆円 1兆円市場の顕在化
顕在化イオンチャンネル市場のシェア目標	<ul style="list-style-type: none"> 30% 3000億円

~毒を薬に、タランチュラ毒とペプチドディスプレイとイオンチャンネルの三位一体の創薬展開~

毒蜘蛛ペプチドによるイオンチャンネル創薬

多種多様な病態・疾患に関わるイオンチャンネル創薬を推進します。

潜在的な1兆円規模の市場を顕在化し、人類の健康に貢献します。



毒を薬に



メロディ・インターナショナル株式会社

減少する産婦人科医

12年で1,788名を減

増加する高齢出産

30% ↑ 高齢出産

都会でのお産難民

**安心安全な出産を
 全てのお母さんへ**

〜妊婦の遠隔診断プラットフォーム〜

**フチ胎児心拍計
 Melody
 電子母子手帳**

電子母子手帳との連携
 妊娠から出産までの母親と胎児の健康情報や
 児の健診・子育て情報をお母さんが入力

管理・基本情報、妊娠カレンダー、胎児の様子、
 乳幼児健診・ワクチンカレンダー、妊婦の
 体重・健康、日記、ニュース・メール

特徴

- クリニクや助産院、自宅でも胎児心拍数
 母体温度を計測
- 計測データやグラフをタブレットへ送信
- 遠隔の医師がリアルタイムで計測結果を確認
- 操作性の高いタッチパネル
- 小型・軽量で持ち運びが容易
- 多言語対応なので、海外でもそのまま使用可
- 救急車や救急ヘリ搭載可能
- 計測中にリラックスミュージックが流れる
- 電子母子手帳付き

Melody International

©2015 Melody International Ltd.

今までの診療 **→** 遠隔診療+在宅PHR

多忙
要来院

大型
高額

小型
軽量
多言語対応
Wi-Fi 対応
30年ぶりの
進化

ワイヤレス 2つのトランスデューサ

ビジネス香川

尾形 優子さん

ITで一つでも多くの命を救いたい

※前職時代の記事

市場を開拓 安全・安心な出産をITで支える

Prime Person 尾形 優子さん

必要に応じて遠隔診療や在宅PHRを提供し、妊婦の健康をサポートする。また、産後ケアや育児支援にも取り組んでいる。

ビジネスモデル

B to B to C

病院・診療所・助産院

契約 / 500万円
 保守 / 50万円

妊婦さん

1万円/人
 2万円/人

1出産にかかる費用
 60万円〜100万円

競合分析

高額

低価格

高機能

低機能

T社
G社
P社

A社

J社

Melody International

1万円以下胎児心拍計 オモチャ

超小型 胎児心拍計 スマートフォン対応

標準型 プリンター内蔵 スマートフォン対応

大画面 胎児心拍計 スマートフォン対応

©2015 Melody International Ltd.

LacteoLABO

合同会社WiFiシェア

事業プラン名: 汗中バイタルセンサーを活用したトレーニングサポートサービスの提供
代表者: 濱田 謙一 (所属 LacteoLABO)
協力メンバー: 藤岡 昌泰、宇野 高明、伊藤 彰基
連絡先: ken-ichi_hamada@jsr.co.jp

Social Impact
 汗から得られるバイタル情報から、運動の質を見える化するサービスを提供

Technology “素材を活かしたセンサー”と“アルゴリズム解析”のコア技術

Business 攻略市場: 競技ランナー, 事業: センサー販売/データサービス

Technology Roadmap

年	2015	2016	2018	2020
Sweat Sensor				
Lacnote				

事業プラン名: 通信をシェアしてインターネットを無料に (ソフトウェア版のFON、通信回線版のUber)
代表者: 荻田 剛大 (所属 合同会社WiFiシェア)
連絡先: info@wifishare.jp

社会へのインパクト
 使える回線がどこにでもあり 通信量/料を気にしない世界を創る

シーズ技術の概要
Wi-Fiパッケージを動的に作成し ユーザの生活をWi-Fiで覆う

- シェアされている回線にアクセス時にVPN通信をデフォルトで実施する技術
- 利用した&利用された通信量を集計し課金額&ペイバック金額を計算する技術
- ユーザ情報(閲覧情報&閲覧位置情報)を解析し、マッチしたオファーを配信する技術
- ユーザの行動履歴から必要なWi-Fiを計算し、パッケージ化する技術

事業化構想
回線を専有する時代の終わり

- 解決したい課題: 高い料金&利用制限がある通信環境、贅沢で使い切れない光回線
- ソリューション: 通信を専有するのではなく、シェアして共同で利用する
- ビジネスモデル: 周りのユーザとシェアして通信料金を割り勘、広告主とシェアして広告収益を獲得
- マーケット: 150兆円(世界のモバイル通信市場&広告市場)

今後の技術進化と開発計画
サービスはMVPとしてリリース済み シェアWiFiの拡大フェーズ
 自治体、商店街、店舗、施設、デベロッパーと連携し、各者がメリットを享受しつつ、インターネットが無料な街を創る

ソリューション Sweatバイタルモニタリングをプラットフォーム化し、トレーニングを通した新ライフスタイルを創造

センサをつけてトレーニング
 Sweat Lactate Sensor SLS

汗成分のデータ解析
 Lacnote

個人へフィードバック
 ・週1筋トレを行い、有酸素運動性を上げましょう...
 ・水分、特にイオン成分を多めに取って下さい...
 ・〇歳平均に比べて、運動強度が高くなりました

クラウド管理
 複数人データ解析 志向/行動/正確性

データサービス
 ウェアラブルデバイス スポーツウェア 飲料・食品・保険
 ※今後のチャレンジ

事業展開性 素材・プロセス・アルゴリズム解析のコア技術を生かし、他デバイスとの連携(共創)を目指す

パートナー募集中

無料でネット使い放題な街(住宅&街中すべて)を一緒に創るパートナーを募集中

弊社への会員登録で街中のWi-Fiを自動的に利用可能に



- 住宅街**
複数家庭で1回線をシェア、広告配信で無料化
- お店/施設**
Wi-Fiをマーケティングツール化し無料で提供

株式会社飛鳥電機製作所

株式会社アップフォーマ

事業プラン名: 糖尿病を未然に防ぐ、簡易で精度の高い足裏検査システム (日本医療研究開発機構の平成27年度医工連携事業化推進事業の採択を受ける)
代表者: 吉村 真一 (株)飛鳥電機製作所 代表取締役
協力メンバー: 大阪市立大学大学院 医学研究科 絵本 正憲
協力メンバー: 昭和大学 保健医療学部 佐藤 満
連絡先: 06-6353-1906

シーズ技術の概要(新規性・革新性)
(Technology)

・糖尿病の有病者は国内950万人超、予備軍2,050万人と、「国民病」ともなっているが、自覚症状が出ないため予防が難しい。
 ・また既存技術では針を刺すため、痛みや感染症の危険から、あまり普及が進んでいない。

【技術概要】

・糖尿病の合併症のうち、いち早く出現する足の神経障害に着目し、痛くない(非侵襲型)検査装置を、独自技術(ズレ刺激)を用いて実現する。

【特長(革新性)】

- ・初期症状のない健常者から重症者まで、幅広く段階を追って測定。
- ・検査時間が短い。
- ・非侵襲で安全性が高い。
- ・使用に専門性が不要。
- ・消耗品が不要で対費用効果大。

事業化構想(解決したい問題、攻略市場、具体的商品・サービス、ビジネスモデル、事業としての新規性)
(Business)

【攻略市場】

- ①医療機関での利用
医療行為として、医師らによる健康保険を適用した検査利用
- ②施設での健康チェック
高齢者施設やフィットネスクラブ等での利用
- ③個人レベルでの利用
家庭での生活習慣病の予防診断および健康管理

※海外市場は国内の60倍(推定)
【事業としての新規性】
 今まで無かった糖尿病の予防・日常からの健康管理を通じ、人々の健康増進に貢献

社会へのインパクト(事業のスケラビリティ、社会にもたらす変革)
(Social Impact)

- ・国内糖尿病医療費総額: 1.3兆円(有病者1人あたり: 約13万円/年)
- ・本人が働けないための経済損失
- ・家族の負担
- ・社会の負担(福祉支出など)

↓
糖尿病予防・健康増進による社会・経済への効果は計り知れない

【参考】

世界の糖尿病人口(2035年)6億人

今後の技術進化と開発計画(助成金、リスクマネーの導入)
(Technology Roadmap)

- (1)簡易型機器の開発
より安価なモデルを現在開発中(国委託費)で、2016年上半年期までに完了予定。これにより、特に健康保険対象外の利用での普及を図る。
- (2)アプリ開発
診断結果を見える化し、推移を管理できるアプリを、投資資金により開発予定。(2016年上半年期)クラウドサービスとの連携も想定。

事業プラン名: アマチュアサッカー向けトラッキングシステム
代表者: 山田 修平 (所属 株式会社アップフォーマ)
協力メンバー: 西田 琢也
協力メンバー: 春日 崇喜
連絡先: info@upperforma.com

シーズ技術の概要(新規性・革新性)
(Technology)

選手の動きをデータ化するために、設備なしでセンシングするため、GPSと加速度などの複合データからの位置推定を行っています。
 加えて、アマチュア向け製品のため、コスト面での制限もあり、廉価かつ継続して確保しやすい部材を使うなど、ハードウェア設計時から工夫しています。

事業化構想(解決したい問題、攻略市場、具体的商品・サービス、ビジネスモデル、事業としての新規性)
(Business)

アマチュアサッカー(ジュニアからユース)向けに、パフォーマンス向上に不可欠な直感的かつ客観的な、すでにプロでも利用されている、トラッキングデータを得る新しい手段を提供し、短期間で効果的な上達を実現します。
 欧州、米国、日本、中東など、世界で端末の販売を行います。
 データ分析やパフォーマンス予測などのサービスで課金します。

社会へのインパクト(事業のスケラビリティ、社会にもたらす変革)
(Social Impact)

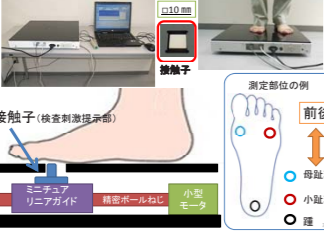
サッカーに留まらず、他スポーツでも子ども時代から客観的なデータを活用できれば、金銭や指導者などの環境要因に大きく左右されず、本来持っている特質を伸ばし、いまままで埋もれていた才能や将来を拓くことが可能だと考えています。

今後の技術進化と開発計画(助成金、リスクマネーの導入)
(Technology Roadmap)

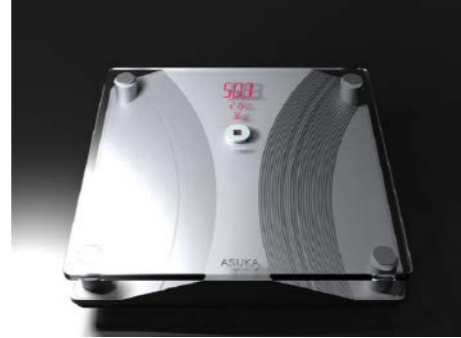
選手とチームの可視化と統計的な分析からスタート。次に、パフォーマンスの状態評価と予測。さらに、選手が入れ替わったり、食生活や天候などの多数の要素を元にした精度の高い推測。最後に、指標の再構築や処理の自動化。これらベースにパフォーマンス向上の提案を行います。
 データサイエンスやスポーツ科学の研究機関との提携を考えています。

- 1、クラウドコンピューティングシステムを構築し種々のサービスを提供。
- 2、生活習慣病の予防に貢献。
- 3、サービス提供により収益を確保。

足底感覚検査装置の試作機(製品版)

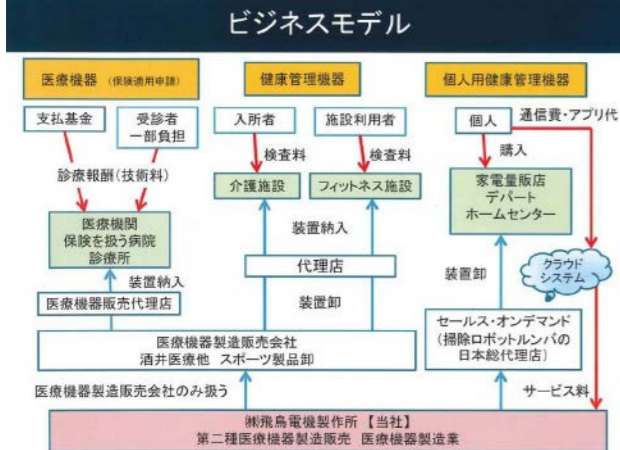


装置販売による収益モデル



個人用健康管理機器

サービス提供による収益モデル



Eagle Eyeはアマチュアサッカー向けトラッキングシステムです。

動きを記録 → データ分析 → スマホで閲覧

Lv.3

コーチングアシストAI
トレーニング・アレンジ

Lv.2

パフォーマンス評価
パフォーマンス予測

Lv.1

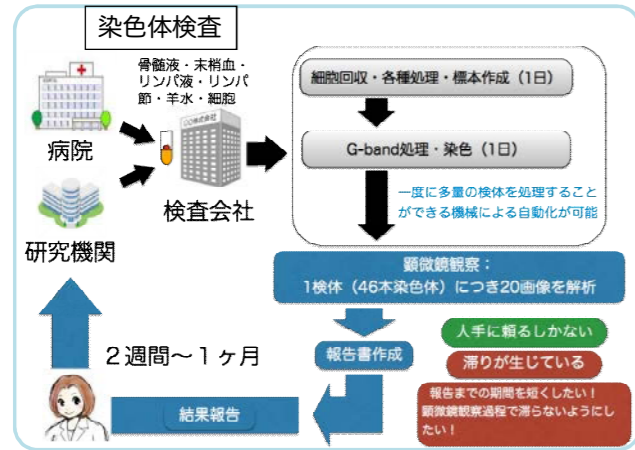
データ化
動画ヒストリー管理

UP PERFORMA

株式会社アドアテック

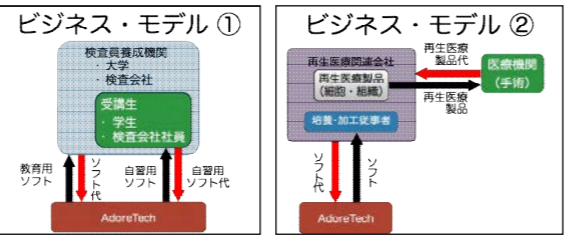
事業プラン名: 染色体検査用教育ソフト事業
 ~支援サービスへの展開も目指して~
 代表者: 吉澤達也(株式会社アドアテック)
 連絡先: yoshi.adorettech@me.com

ビジネス概要
 人が行わなければならない染色体検査において検査員を増や
 ず、もしくは再生医療研究者が自分で染色体検査を自分で行
 えるようになる**染色体解析教育ソフトの提供**



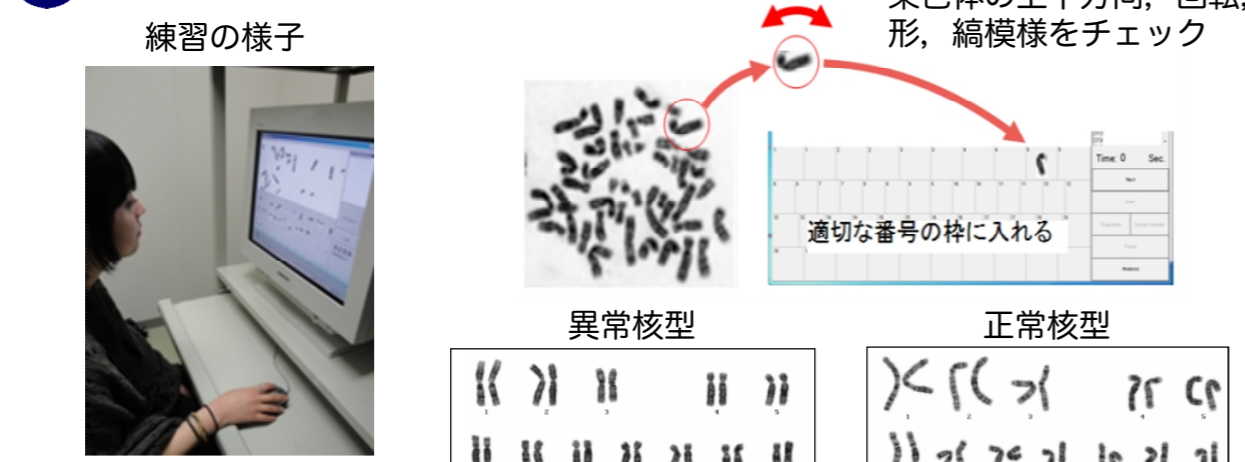
解決したい問題
 ①染色体検査員の不足のため
検査結果が出るのに時間がかかる。
 ②再生医療研究従事者が自分で染色体検査をおこな
 いたい**が、技術を自立的に習得する手段がない。**

ソリューション
染色体解析教育ソフト (CRASTA)
 の提供
 CRASTAのメリット **短期間に自立的に習得できる**
 ・ 熟練染色体検査技師の指導が不要
 ・ PC用ソフトでいつでも、どこでも学習できる

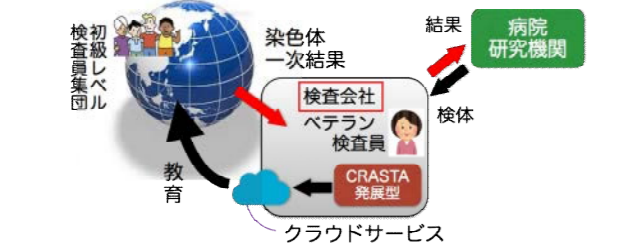


社会へのインパクト: 50倍のバックストック染色体検査を解消
 検査市場—2012年日本国内の検査状況で算定
 (出生前・羊水検査、先天異常・生殖障害、白血病・リンパ腫・固形腫瘍・培養細胞)
 検査コスト: 54億円
 検査実数: 225,000件
 必要検査員数: 225人 (1人4件/1日 x 250日=1,000件)
 原発事故による必要検査員数
 必要検査数: 1,000万件 (潜在的受診者数 約500万人 x 2回/年)
 必要検査員数: 10,000人 (1000万件/1人1,000件)

染色体検査用教育ソフト(CRASTA)



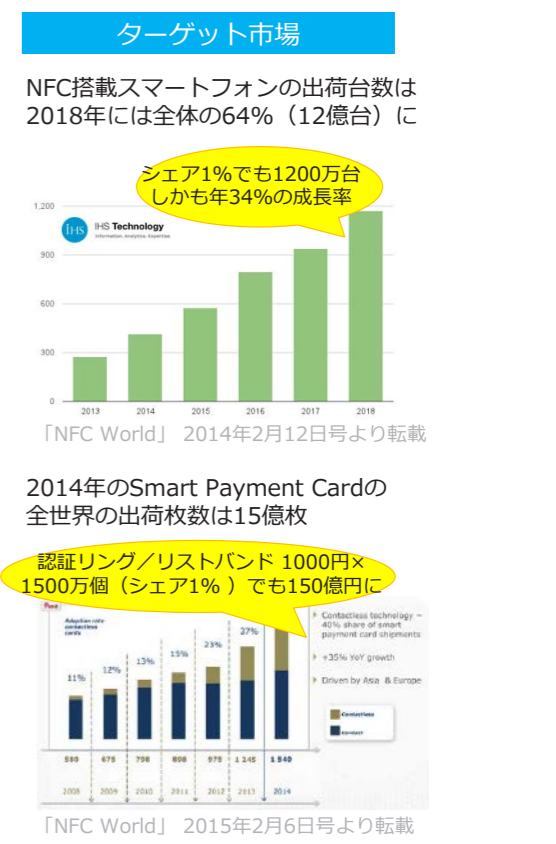
「染色体検査会社」の設立
 (2018年初)
 ・ 定年退職後のベテラン検査員の活用
 ・ 海外の多くの初級検査員の育成と活用



染色体解析は
 ・DNA解析の際にも染色体解析は必須
 ・染色体解析は完全自動化できない

株式会社eNFC

ウェアラブル機器に最適な通信技術を提供
株式会社 eNFC
 代表取締役 和城 賢典 (Takanori Washiro)
 取締役 竹村 宏史 (Hiroshi Takemura)



eNFCが拓く未来



提供する価値

- ・ユーザビリティの拡張
- ・人の体を通じた電力伝送

↓


社会へのインパクト

- ・やりたいときにやりたいことができる 自由な社会
- ・身につけたまま、使いながら充電



世界をもっと便利に、人類をもっとスマートに
<http://enfnc.jp>

イーセップ株式会社

事業名:モバイル水素プラントの開発・事業化
 代表者:澤村 健一 (イーセップ, eSep) *smile by easy, eco-efficient Separation* 
 協力者:日野上 貴康
 連絡先:sawamura@esep-membrane.com

シーズ技術の概要(新規性・革新性)
(Technology)

ナノ空間(nm: ナノメートルは10億分の1メートル)を精密制御したセラミック分離膜は、従来の分離膜にはない分子レベルの分離が可能であり、化学産業用途に利用可能な高い耐久性もあわせもちます。

弊社は1 nm以下の細孔を超精密制御したセラミック分離膜技術を活用し、反応と分離場を一体化したメンブレンリアクター方式により、高効率で車両搭載可能なモバイル水素プラントの開発・実用化を目指しています。

事業化構想(解決したい問題、攻略市場、具体的商品・サービス、ビジネスモデル、事業としての新規性)
(Business)

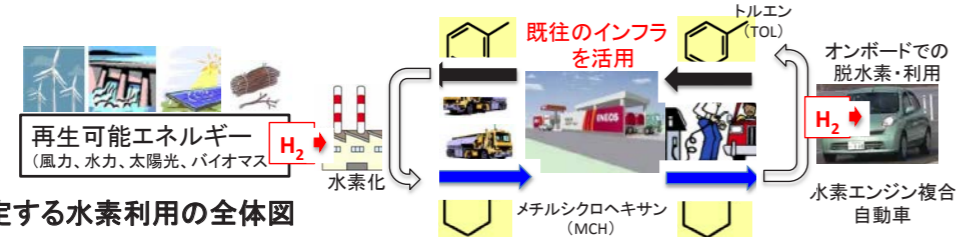
CO2を大気中に放出しない水素の高度利用社会の実現には、水素利用における安全性と経済性の向上が必須です。既存のインフラが活用できる有機ハイドライドなどの液体系水素化合物をオンサイト、オンボードで水素抽出・利用できれば、高圧で水素を貯蔵しておく必要がないため安全性が向上し、更に水素輸送に要するコストを大幅削減することが可能になります。我々は反応と分離を一体化し、オンボードでの搭載も可能なシステムの小型化を試みます。

社会へのインパクト(事業のスケールビリティ、社会にもたらす変革)
(Social Impact)

日経BP社によると、水素インフラ市場は2020年に10兆円を超え、2030年に約37兆円、2050年には約160兆円と予測されています。本事業で提案するシステムが具現化すれば水素利用コストを半減できるため、水素インフラ市場の主流へと発展することが期待できます。特に本事業で開発する製品については専用機器を製造できるトップメーカーとして、その市場の80%以上の占有率を目指します。

今後の技術進化と開発計画(助成金、リスクマネーの導入)
(Technology Roadmap)

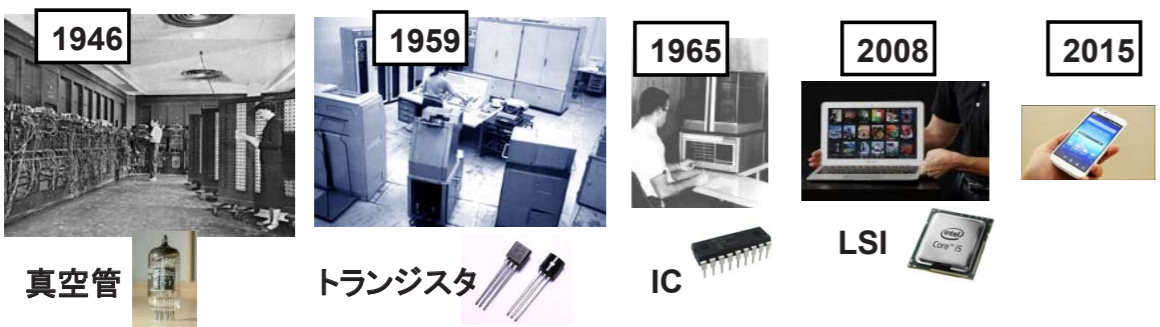
本年度は本事業で提案するシステムの試作機を構築し、その有用性を検証します。本提案の有用性が確認されれば助成金およびVC等からのリスクマネーを導入し、本事業を拡大・加速致します。



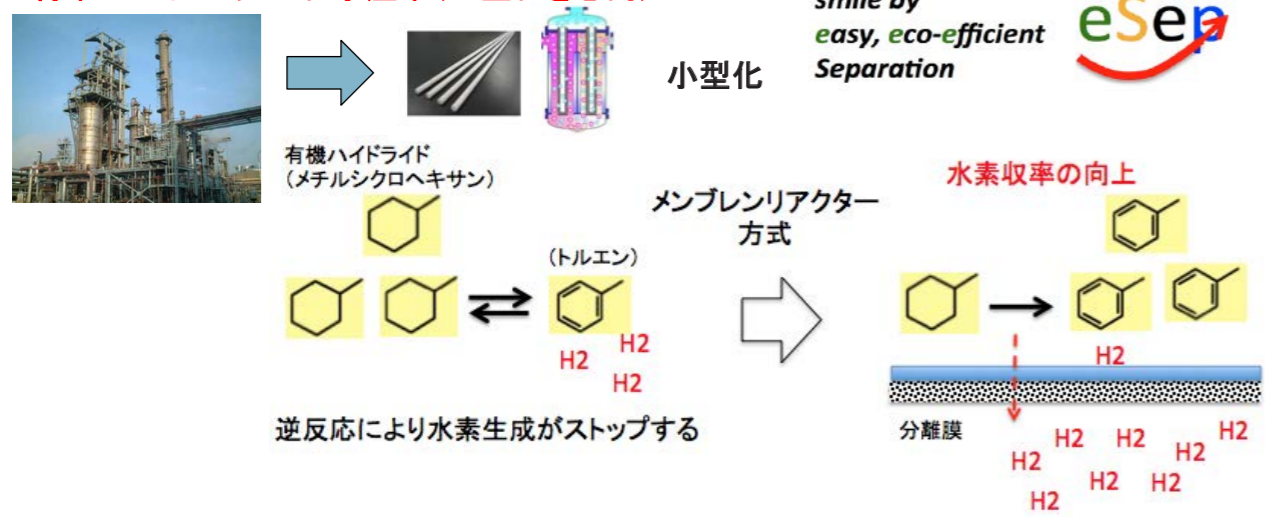
本事業で想定する水素利用の全体図

根拠: 文献[http://www.pecj.or.jp/japanese/report/2006report/06sin04.pdf#search=オンボード水素膜反応器]をもとに変更
 * 原書中の水素源を再生可能エネルギーに変更、FCVを水素エンジン複合自動車に変更

<コンピューター産業の小型化の歴史>



<将来のエネルギー・化学産業(小型化を志向)>

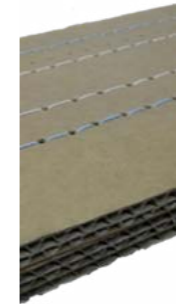


株式会社エコス

事業プラン名:糸でHIRAKU新しいパッケージの創造
 代表者:多和田 博(所属 株式会社エコス)
 協力メンバー:倉地 辰盛
 協力メンバー:
 連絡先: 090-3953-6101 もしくはhiroshi@tawada.co.jp

シーズ技術の概要(新規性・革新性)
(Technology)

15ミリの厚みの強化段ボールを単環縫いという手法で接合し、従来の金属製の止金からのスイッチングを可能にし、錆びや傷、またCO2削減を可能にする。



事業化構想(解決したい問題、攻略市場、具体的商品・サービス、ビジネスモデル、事業としての新規性)
(Business)

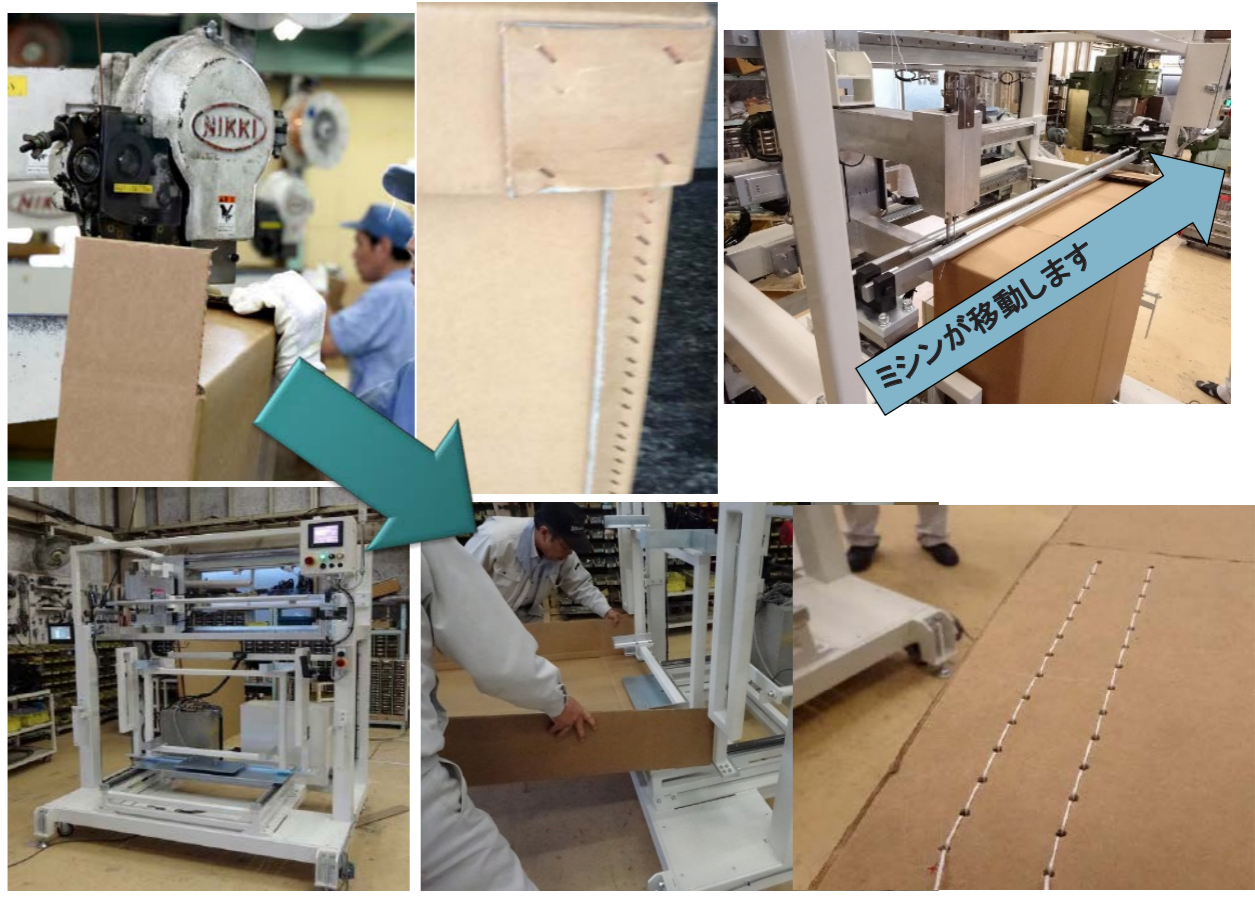
強化段ボールのキャップ部の縫合機を開発を、プロト機を元に進める。強化段ボール会社の工場やケースのユーザーの工場への導入を目指して、リユースネットワークを構築して、世界中にエコ・ステッチャーを普及させる。販売とレンタルとも採用し普及を目指します。

社会へのインパクト(事業のスケールビリティ、社会にもたらす変革)
(Social Impact)

単環縫いのメリットの易分解性を活かして、段ボールの到着地域でのリユースを可能にし、コストダウンとCO2削減を可能にする。また、生産現場での省力化と安全性を提供します。

今後の技術進化と開発計画(助成金、リスクマネーの導入)
(Technology Roadmap)

半年以内に、プロト機の問題点を解決して、2号機への開発を進める。出資や27年の補助金も活用し、また、クラウドファンド等も活用し、開発資金を集める。



株式会社空



高瀬 章充
CEO
未踏クリエイター・鳥人間コンテスト・ベンチャー起業



松村 大貴
CMO
企業ブランディング・WEB制作・デザイン・国際広告賞

こんにちは！株式会社空（SORA）の高瀬と松村です。プレゼンテーションではあまりお話しできないため、この場を借りて僕ら自身についてご説明したいと思います。

SORAは今年の4月に立ち上がった、（おそらく）今いちばん新しい航空機ベンチャーです。高瀬は福岡県出身の27歳。航空自衛隊に勤める伯父と映画『紅の豚』の影響で幼少期から飛行機作りの夢を持ち、高専を出て鳥人間コンテストなどに打ち込んできました。筑波大学在学中に最初の起業をし、CFOとして経営と数億円の資金調達を経験します。

松村は埼玉県出身の26歳。『天空の城ラピュタ』とガリレオ・ガリレイの影響で空と宇宙に憧れ、工作とコンピュータが好きな科学少年でした。慶応大学でマーケティングを学び、卒業後はYahoo! JAPANで企業ブランディングと事業立ち上げを経験します。

二人が出会い、創業してはじめにしたことは航空大国アメリカでのリサーチでした。電気航空機シンポジウムでは多くの（ただし若者は私たちだけ）研究者や企業から最新技術の実現性と可能性を学びました。日本では見られない巨大な個人向け飛行場では小型機オーナーの話聞き、リアルな市場規模と残る課題を知りました。福国し、資産の少ない私たちがまず立ち上げたのがパイロットのトレーニング事業です。超軽量動力機という日本でも比較的取り組みやすい飛行機のスクールをWEBで紹介。憧れる人は多いが実現の方法があまり知られていなかった日本で、まずは経験者を増やすことからはじめました。先行して実施したクラウドファンディングでは70名超の方から、100万円の資金調達ができました。

そして現在、設計・製造のためのメンバーも加わり、本日ご説明する個人向け航空機事業に取り組んでいます。

長く、困難な挑戦になるのは理解しています。資力に乏しいベンチャー企業が航空機を開発し販売していくためには、あらゆる創意工夫はもちろん、多くの方のご協力も必要です。私たちはIT・ソフトウェアの経験を活かした事業も行い収益を上げながら、日本の航空機事業の成功を目指していきます。

もしご共感していただけましたら、本日を機会につながりを深め、応援していただけると幸いです。ご質問・ご提案・仕事のご依頼など、どんなことでも構いません。ご連絡お待ちしております。



株式会社空
移動が変われば世界が変わる！
空のパーソナルモビリティ
「e-Sky」



共同創業者兼副社長
松村 大貴
daiki@sora.flights
080-7002-9420

株式会社空
東京都千代田区神田神保町3
富士ソフト秋葉原ビル 12F
DMM.make AKIBA Base 2501
03-4540-3710(代)

チームRetissa

事業プラン名： 網膜走査型レーザアイウェアの製造・販売 (チームRETISSA)
 代表者：宮内 洋宜(所属 株式会社QDLレーザ)
 協力メンバー：菅原充、鈴木誠、中村学
 連絡先： miyauchi@qdlaser.com

シーズ技術の概要(新規性・革新性) (Technology)

フレーム内蔵の超小型レーザプロジェクタから網膜に直接画像を投影する技術

特長①フォーカスフリー
》視力やピント位置に関係なくぼけのない画像を見せられる
》ロービジョンの方でも利用可

特長②ユニバーサルデザイン
》眼鏡やサングラスと同様の違和感のないデザイン

特長③完全AR
》ピントずれのない拡張現実を実現可能

事業化構想(解決したい問題、攻略市場、具体的商品・サービス、ビジネスモデル、事業としての新規性) (Business)

全盲ではない視覚障害者(ロービジョン)
・眼鏡等でも矯正できない
・日常生活に不便

レーザアイウェアを提供『視覚支援機器』

従来の福祉用具等では実現できない機能や特性(比較表参照)

↓

QOL(生活の質)向上に資する

社会へのインパクト(事業のスケールビリティ、社会にもたらす変革) (Social Impact)

ロービジョンの方々
・国内約150万人
・世界5,000万人
・高齢化により確実に増加

さらに
医療機器応用、作業支援、スマートグラスへと順次展開『視覚を再定義する』

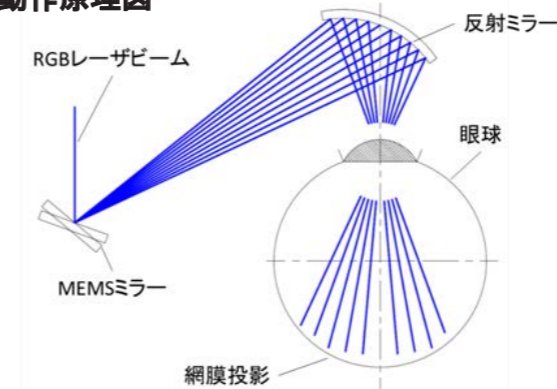
今後の技術進化と開発計画(助成金、リスクマネーの導入) (Technology Roadmap)

2016年3月に市販化
NEDO 平成27年
課題解決型福祉用具
実用化開発支援事業の助成

2017年
更なる小型化、軽量化
世界展開を開始

2018年
真のスマートグラスを実現

動作原理図



製品化プロトタイプ外観



比較表(vs 拡大鏡・拡大読書器)

	対象の拡大	望遠	ハンズフリー	重ね合わせ (AR)	対人・屋外での利用	外部入力
本製品 	○可能 カメラ機能で実現	○可能 カメラ機能で実現	○可能 両手が使える	○可能 完全ARが可能	○可能 通常の眼鏡と同様	○可能 スマホ連携やデジタルコンテンツ鑑賞
従来福祉用具 	○可能 主要な機能	×困難 原則として近距離を見るもの	×困難 片手、もしくは両手がふさがる	×困難 視野は対象で占められる	×困難 対象の位置的に顔や風景の認識には不適	△一部可能 機能を備える製品もある

装着イメージ



Trickey

ナノデックス株式会社

PC 向けカスタマイズキーボード「Trickey」の実用化

ゲーマーやクリエイター、既存のキーボードに不満を持っているユーザに向けて、必要最小限の構成を作成可能なモジュール型のカスタマイズキーボードを提案します！最終的には規格化されたモジュールにより様々な機能を追加可能にし、既存のキーボードを超える存在となることが目標です。

課題 難治性癌を対象とする抗がん剤の開発

日本の癌死亡者数は増加の一途(1947~2010)

難治性がん一貫

項目	がん患者(日本)	がん患者(世界)
患者数	130万人(2002)	1400万人
死亡者	32万人(2005)	800万人

難治性がんは増え続けており、化学療法による副作用、多剤耐性による悪化

開発項目とスケジュール

2016 2-3 4-5 6-7 8-9 10-11 12-1

2017 2-3 4-5 6-7 8-9 10-11 12-1

2018 2-3 4-5 6-7 8-9 10-11 12-1

開発項目: 2D/3D cell culture, In vitro 有効性評価, CMC, 非臨床試験, P1試験開始, P2試験開始, P3試験開始, P4試験開始

投資: NEDO 3500万円, VC 6000万円, NEDO 7000万円, VC 6000万円

市場規模

出典: 雑総合企画センター

抗がん剤全体 日本 9800億円(2017) 世界 6兆円(2015)

分子標的抗がん剤 日本 5000億円(2014) 世界 4兆円(2014)

難治性癌用剤 日本 1300億円(2014) 世界 6兆4400億円

収益モデル

ライセンスアウト、4年後、P1試験後
事業価値は～30億円と想定

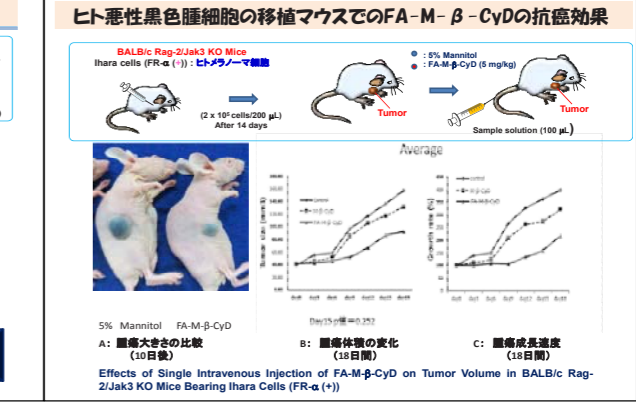
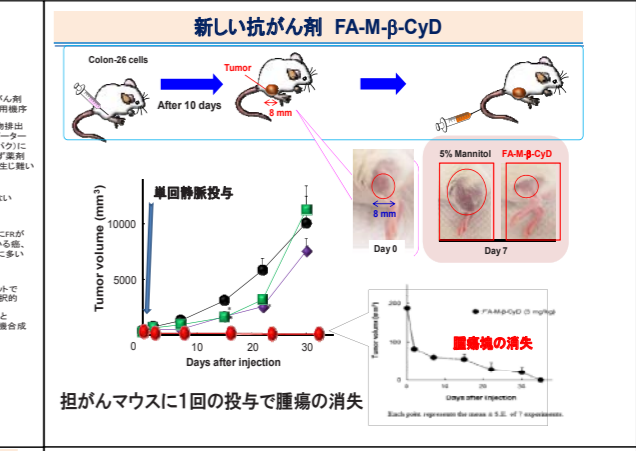
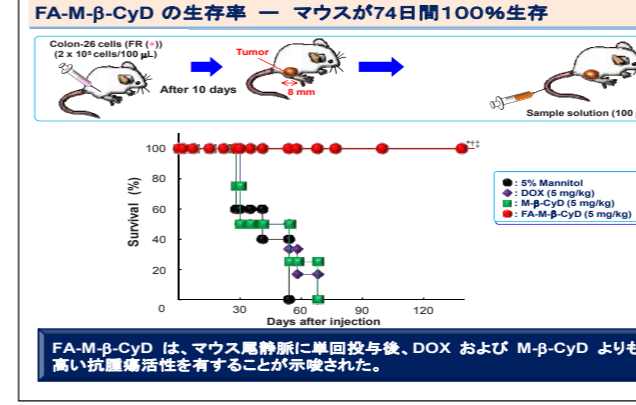
投資

- 6) 製造販売承認申請 30億円
- 7) P2試験 1.5億円
- 8) 6) 製造販売承認申請 936万円
- 9) P1試験 2000万円
- 10) 製造販売承認申請 2450万円
- 11) 製造販売承認申請 7000万円

新抗がん剤FA-M-β-CyDと競合薬の比較

分類	殺菌性分子標的薬	分子標的薬(抗体)	殺菌性分子標的薬	分子標的薬
作用機序	DNA合成阻害(アポトーシス)	血管内皮細胞増殖因子阻害(アポトーシス)	DNA合成阻害(アポトーシス)	ミトコンドリア障害 オートファジー誘導
抗癌効果	○	△	○	◎
副作用	× (心毒性など)	△ (消化管穿孔、出血など)	○ (血小板、白血球、好中球減少、発熱など)	○
適応がん種	固形がんを含む多くのがん種に適応	再発再燃の進行した少発癌、悪性大腸癌	化学療法後に増悪した再発癌、再発肺癌	固形がん
腫瘍選択性	△	◎	△	◎
費用対効果	○	△	○	◎
薬価	96,543円/20mg	50,291円/100mg	7,349円/g	数千円/g
商品名(企業名)	ドキシル(ヤシキファーマ)	アパステン(Genentech/Roche 中外製薬) 56億円(2016年内)	ジェムザール(イーイリリウ) 190億円(2016年内)	FA-M-β-CyD

FA-M-β-CyD は、新規作用メカニズムを有し、副作用が少なく、腫瘍細胞選択性を有し、製造コストも極めて低く経済性も高い、有望な抗がん剤シーズ



難治性がんを対象としたオートファジーメカニズムによる日本発の分子標的抗がん剤の開発

ナノデックス株式会社

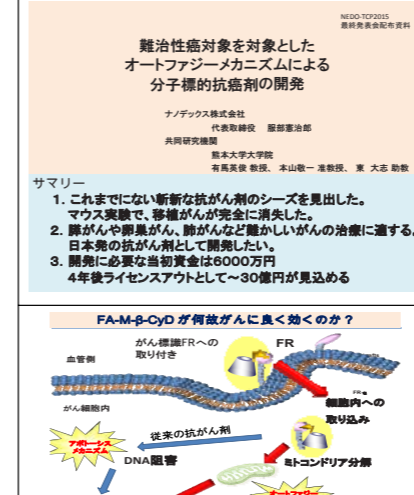
代表取締役: 副島 隆之 (工学, 前東京工業大学教授, シクロキネチリン学会顧問)

取締役: 佐藤 光太郎 (工学, 前中外製薬, がんシナジーサイエンス)

取締役: 佐藤 隆之 (工学, 前中外製薬, がんシナジーサイエンス)

取締役: 中野 智子 (理学, 前三井物産, 前長谷川理論物理解析所パートナー(非博士))

共同研究開発: 製薬企業, NEDO



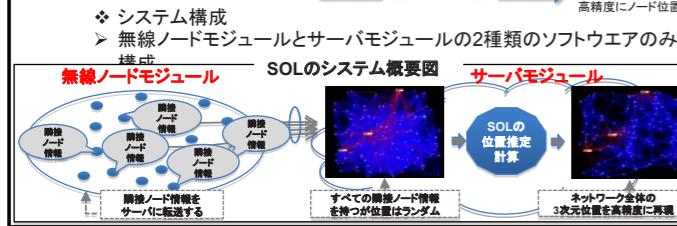
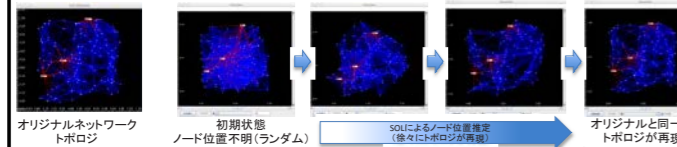
Network Intelligence

次世代位置推定方式SOLによるSmart Finder 事業

代表者：北之馬 貴正(所属 関西大学)
連絡先：k593487@kansai-u.ac.jp

SOL(Self-Organizing localization)の特徴と概要

- < SOL の特徴 >
- どこにでも適用可能(Space-Free)
 - 耐障害物に非常に優れ、障害物混在環境でも精度劣化せずに測位可能
 - 測位設備不要であり、無線ネットワークが自律的に測位
- どんな無線ノードにも適用可能(Node-Free)
- 測位のための追加デバイスが不要かつ無線通信メディアに依存しない
- 無線ノードでの計算量・通信量が極めて小さく、省電力。
- 高精度
 - 拡張性が高く、無線ネットワーク規模拡大に従い精度向上
 - ネットワーク全体の3次元の位置を高精度かつ動的に再現
- < SOLの概要 >
- 位置推定アルゴリズム
 - 無線ネットワークに自己組織化マップ(SOM)を適用し、無線ネットワーク内の各ノードの隣接ノード情報のみから自律的に位置推定を行う
 - 各ノードはランダムな自己位置を生成する
 - 隣接ノード間で自己位置と隣接トポロジ情報(ホップ数)を交換する
 - 交換した位置関係に基づいて自身のノード位置を修正する
 - 位置交換と位置修正を繰り返し、ネットワーク全体の形状を再現する(下図:白点は無線ノード、四角はアンカノード、青線/赤線は無線リンク)

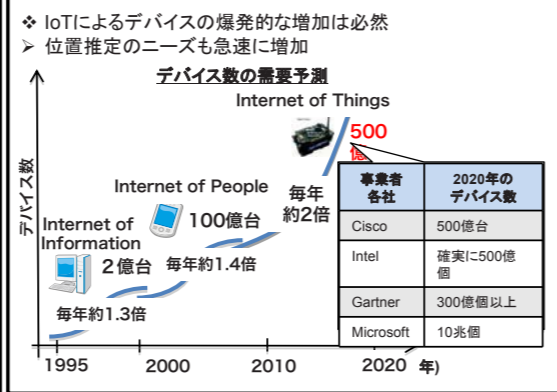


SOLと既存の位置推定技術の比較

- 屋内位置推定で近年注目されているiBeaconやIMES
 - 大量の測位設備が必要
 - 配置する人手やコストがかかる
- ✓ 低コストで高精度に屋内外測位できる方式はSOLのみ

方式	屋外	屋内	精度	測位設備 or 事前測定	備考
SOL	○	◎	数10cm	不要	ネットワーク協調型 屋内外での高精度3次元位置推定
GPS	○	×	数m~10m	GPS衛星	衛星利用型 広く使われている 地下での使用不可
iBeacon	×	○	数m	設備必要	測位設備設置型 大量の測位設備が必要 配置計画と計測が必要
IMES	×	○	5m~	設備必要	測位設備設置型 大量の測位設備が必要 配置計画と計測が必要
地磁気	×	○	数m	事前測定必要	環境分析型 精密な事前測定が必要 精度は磁場環境に依存

位置推定デバイスの需要予測



Smart Finder 事業化構想 --3つのフェーズで人とモノの新たな位置推定市場を開拓する--

SOLの第1フェーズ Smart Finder

--屋内の人の位置を捉える--

- スマートフォンにSOLを適用
- 移動追跡を可能に
- ユースケース
 - スーパーでの顧客移動履歴分析
 - オフィスでの動向管理
- ✓どこでも、誰でも、低コストで様々な屋内位置推定を実現

SOLの第2フェーズ Smart Finder +

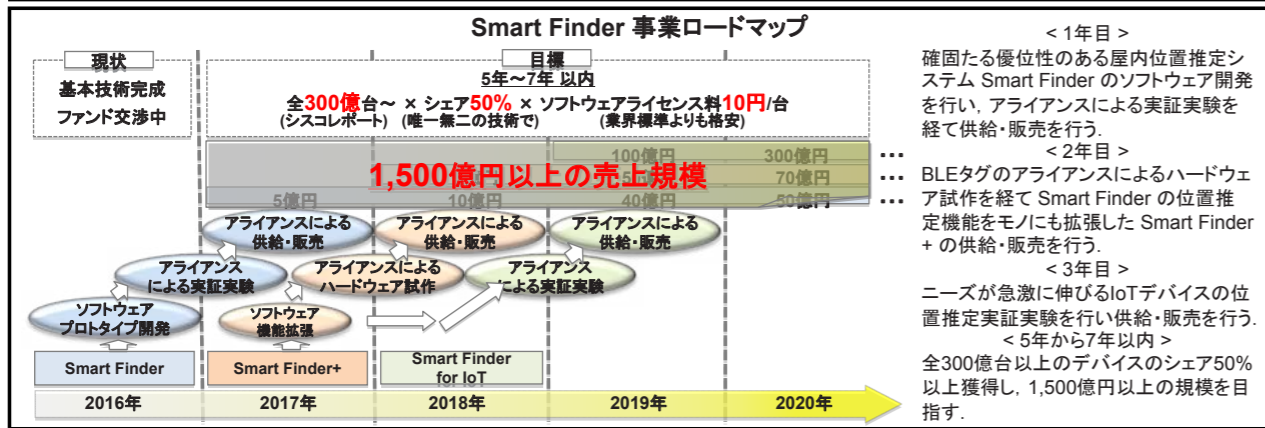
--多数の雑多な物品や設備のすべての在り処が分かる--

- 無線デバイス(BLE)を持つ物品や設備、またはBLEタグを付けたそれらのモノとスマートフォンにSOLを適用
- 多数の雑多な物品や設備のマップを作成
- 人とモノを探す時間をゼロに
- ユースケース
 - 可搬性がある物品の管理
- ✓人とすべてのスマートデバイスの所在が明らかに

SOLの第3フェーズ Smart Finder for IoT

--見える化を位置情報で自動管理する--

- 無線センサ(IoTデバイス)にSOLを適用
- 膨大な数の無線センサを位置管理
- 高コストな人手による管理を自動化
- ユースケース
 - 工場モニタリングのデバイス位置管理
 - 散布された無線センサの位置推定
- ✓膨大な数の無線センサの位置管理を自動化



バブレーション(Bubble+Ablation)

TCP Pitch Contest Dec.9, 2015

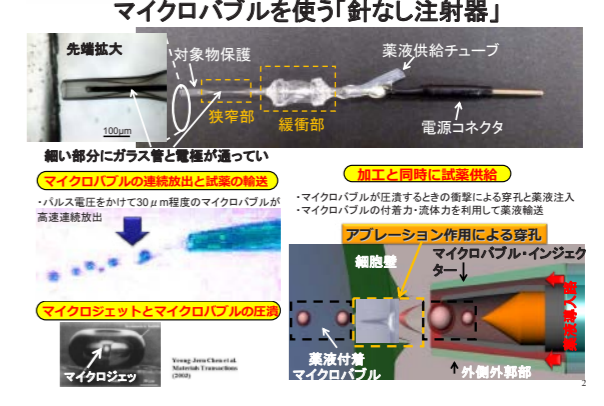
針なし注射器の実用化

チーム **Bublation**
bubble + ablation

泡の力でバイオ・医療の未来を変える!

芝浦工業大学 工学部 機械工学科 准教授 山西 陽子
研究企画課 産学官連携コーディネーター 福熊 律夫

マイクロバブルを使う「針なし注射器」



細胞レベルでの実績

アフリカツメガエルへのm-RNAインジェクション実験

Xenopus Animal embryo, Plant embryo

植物細胞(タバコ細胞BY-2)へのインジェクション実験

穿孔とインジェクションを同時に達成

共焦点顕微鏡画像

10 μm

注射針による事故

- 国内 5万件
- 米国 60-80万件
- 注射器に針がある限り感染と処分が課題
- B型・C型肝炎、HIV等の2次感染は深刻

現状のソリューション

水流ジェットによる針なし注射器 Biojector2000(ガス式)

マイクロニードル 3MのHollow Microneedle

PharmaJet(ばね)

水流ジェット式の課題

- 取り扱いが複雑、高価
- メーカーごとに仕様異なる
- 操作に訓練が必要、メンテナンスが煩雑
- 神経細胞を傷つけたり、痛みを伴う報告あり

ニードル針のため、折れて体内に残置することがある

薬液が針内に凝固することがある

2014/1/8 12:00 日本経済新聞 電子版

ターゲット商品のイメージ

コンセプト:「置くだけ・当てるだけ」

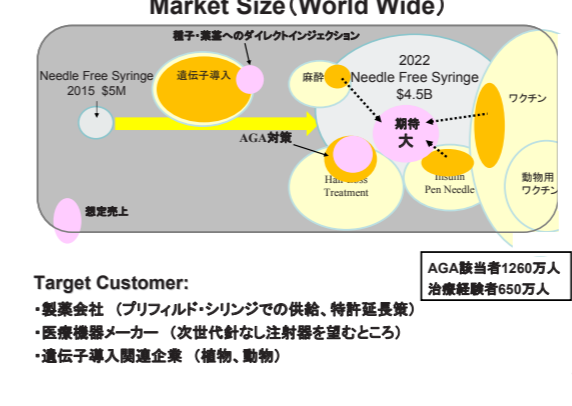
Target Modelのイメージ

操作は先端を取り付けて、部位に当ててボタンを押すだけ

- 薬液カートリッジ交換式
- 複数電極による短時間注入
- 注入速度、注入量は可変

複数の電極からマイクロバブルを送

Market Size (World Wide)



パートナー募集

Bublation

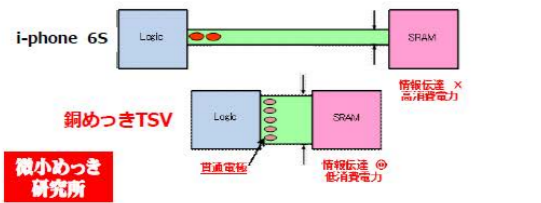
bubble + ablation

微小めっき研究所

株式会社Pyrenee (ピレネー)

事業プラン名: 「添加剤を一滴加えることにより電子機器の故障が皆無になる半導体用銅めっき液のライセンス化を販売事業」
 代表者: 近藤 和夫(所属 大阪府立大学、微小めっき研究所)
 協力メンバ: 黒田守宏、島成優一郎
 連絡先: kondo828@gmail.com 090-8602-9489

スマホ用銅めっきTSV(Through Silicon Via)のメリット



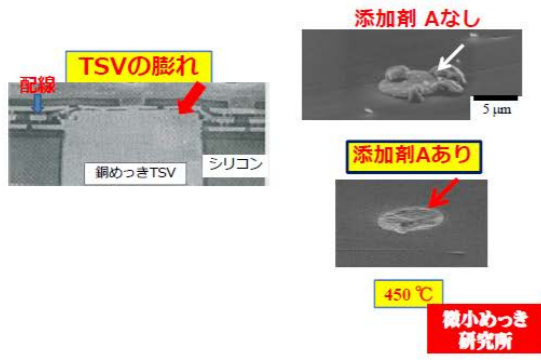
微小めっき研究所

3

SiとCuとの線膨張差が問題
 しかし、問題は線膨張差
 Si $2 \times 10^{-6} / K$
 Cu $17 \times 10^{-6} / K$
 この線膨張差のため加熱過程で膨れ・反り・剥がれの問題が発生
 →TSVの膨れ

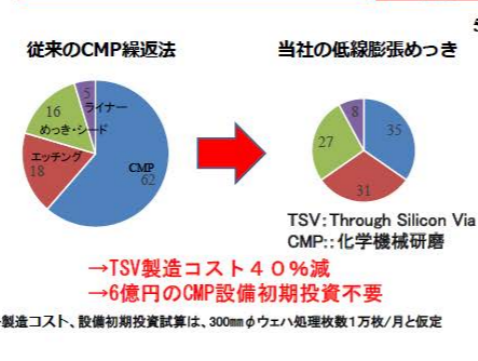
微小めっき研究所

450℃で膨れない、世界ではじめて



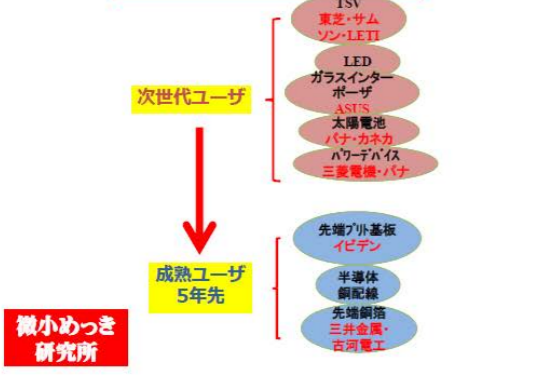
微小めっき研究所

TSV製造コストと設備初期投資



微小めっき研究所

本低線膨張銅めっき液のユーザ



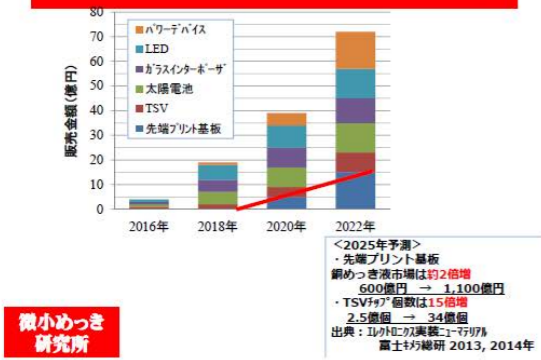
微小めっき研究所

ビジネスモデル



微小めっき研究所

低線膨張銅めっき液の市場規模と成長性



微小めっき研究所

・近藤和夫 CEO/CTO; 大阪府立大教授、半導体の微小めっきの研究開発35年
 *銅めっき・銅めっき液の添加剤に精通している
 *黒田守宏 COO/VPE; シヤープに40年勤務、TSV国プロのリーダー
 *銅めっきの商品ターゲットである半導体の実装分野に精通している
 *VPM/CFO; めっき装置会社の営業課長、
 *めっき商品の営業・マーケティングに精通している



微小めっき研究所

ピレネードライブスクリーン
 Pyrenee Drive Screen
 すべてのクルマに運転支援システムを



すべてのクルマに運転支援システムを

カメラで常に
 走行状況をモニター
 事故の兆候を
 感知したら素早く
 ドライバーに光と
 音で知らせます。

最新の
 画像認識技術を搭載
 カメラの映像から歩行者や他の車を
 認識し、自車との距離や位置関係・
 速度を把握し衝突の危険がないかを
 常にモニタリングしています。



事故原因の7割以上は
 ドライバーの不注意
 ドライバーに早い段階で危険を知ら
 せることが出来れば多くの事故は回
 避できます。

既存の車に簡単に
 取り付けられる
 取り付け工事は不要。
 ドライバー自身で簡単に取り付ける
 ことができます。



自動ブレーキでは
 防げない事故も多い
 とくに時速50km以上で起こる事故
 の回避にはブレーキよりもハンドル
 操作が重要になります。

スマートフォンの
 画面を表示
 通常走行時はスマートフォンの画面
 をスクリーンに表示でき、ナビや音
 楽などのアプリが使えます。



資金調達実施中	発売までに必要な資金 1億1000万円
販売計画	初年度 6億円(2万台) 2016年中の発売を計画 2年目 30億円(10万台) 予定販売価格 5万円未満 3年目 100億円(35万台)

代表者
 三野龍太 Ryuta Mino
 080-5686-1526
 ryuta.mino@pyrenee.net
 www.pyrenee.net

Pyrenee(ピレネー)は
 人の命を救う電子デバイスを作るメーカーです。

minimal

次世代型発電装置「どこでも風車」の製造販売事業
minimal 代表者:北野 道代 技術:柿 直樹
連絡先:E-mail:minimal@r8.ucom.ne.jp



シーズ技術の概要(新規性・革新性)特許

「発電機」特許第4940469号
小型軽量で放熱性に優れ、発電出力の増加が容易なインナーローターコアレス発電機を提供する。



「発電機用ブレーキ装置」特許第5798189号
極めて簡単な構造でありながら確実にブレーキ操作が可能であり、通常の待機電力が不要であり、取り付けやメンテナンスを容易に行うことが可能な発電機用ブレーキ装置を提供する。

※独立電源や系統連携のシステム設計技術があり、あらゆる発電システムの構築が可能である。



事業化構想

「うちわで回る風力発電機」と「待機電力ゼロ」の制御技術は、どこでも発電可能な風力発電機として設置場所を選ばない為市場の拡大を図ることができる。
また、これらのコア技術は「風力発電」のみならず、あらゆるエネルギー(振動、音、熱、光、電磁波、水、波など)を効率よく電気エネルギーに変換する「環境発電」に不可欠であり、新エネルギー・省エネルギー技術を推進し、ユビキタスネット社会やIoTの実現に貢献でき、新産業を興していく波及効果も期待できる。



社会へのインパクト

高性能発電機と待機電力ゼロの制御装置は今ある既存のシステムに置き換えるだけで容易に改良でき、省エネ化を加速させることができる。
またシンプルな構造の為、長寿命でリサイクルにも適しており循環型社会における再生可能エネルギーの担い手としての潜在能力も極めて高い。

今後の技術進化と開発計画

今後、磁石の性能向上やモールド樹脂の熱伝導性の向上など、素材の改良や進化のもたらす効果は大きく、益々軽量・コンパクトな発電機の開発が可能となる。
また発電機としてだけではなく、最適なインバータ制御により高効率のモーターとしての活用も考えられるため、運動エネルギーと電気エネルギー双方の変換装置としての汎用性が高まり、革新的な製品の開発や未知の産業の誕生も期待できる。
これらの技術進化と開発により、「どこでも風車」は単なる風車や発電機の枠を超え、新たなアイテムへと進化していくに違いない。

WondeLab

事業プラン名: 日常生活を変革するウェアラブルアクセサリ
代表者: 荊 雷(所属 会津大学)
協力メンバー: Thomas Jonsson
協力メンバー: 野咲 明生 カルロス
連絡先: leijing@u-aizu.ac.jp



社会へのインパクト(事業のスケールビリティ、社会にもたらす変革)(Social Impact)

本事業の拡大につれて、研究者、宝飾職人を始め、主婦、高齢者や、障害者なども、自分独自のアクセサリを作成可能になり、身近に自然なインターフェースを提供し、もっと簡単で安心、安全な社会生活を送れるよう実現目的とする。

シーズ技術の概要(新規性・革新性)(Technology)

モーションセンサーによるオリジナル動作認識手法を中心に、ウェアラブルアクセサリ開発に欠かせない技術をモジュール化することにより、開発期間を1割に短縮し、コストも軽減することができる。
指ジェスチャー認識やライフログ記録に関する手法の設計、実装、評価に豊富な経験がある。研究論文20本以上、特許1件取得済み、1件申請中。
詳細情報が個別相談になる。

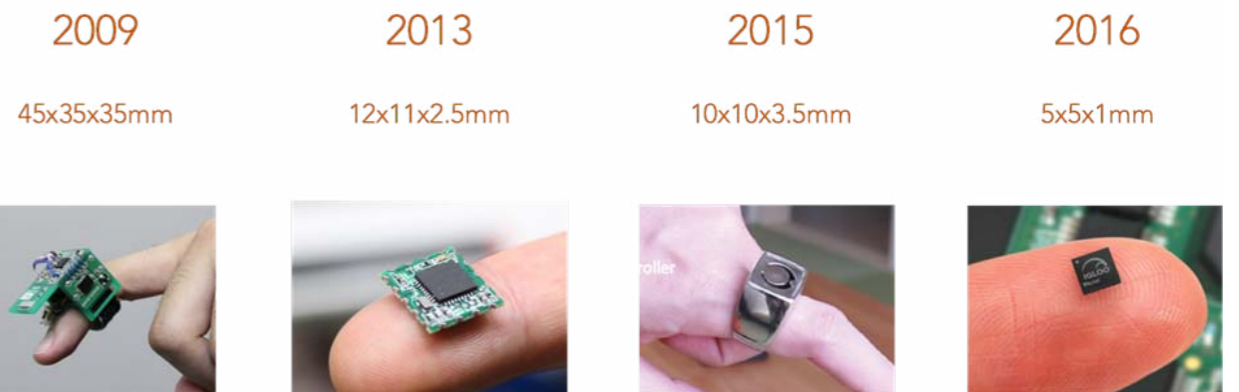
事業化構想(解決したい問題、攻略市場、具体的商品・サービス、ビジネスモデル、事業としての新規性)(Business)

ウェアラブルアクセサリの開発期間は長く、独自の個性が不足しているのが現状である。WondEngineが複雑な開発プロセスをモジュール化により、研究開発期間を短縮したと同時に、市場参入も下げ、誰でも気軽にアクセサリ作成が出来るようになった。誰でもカスタマイズできて、負担できて、メンテナンスフリー、本当に生活に欠かせないウェアラブルアクセサリの研究開発をサポートするプラットフォーム WondEngineを提案する。

今後の技術進化と開発計画(助成金、リスクマネーの導入)(Technology Roadmap)

事業化の第一歩は指輪型アクセサリWondeRing及びペアリングデバイスWondeBoxのR&Dがほぼ完成した。次はCrowdfundingから募金して、小ロード試作と量産になる。同時に、起業支援プロジェクトにも応募している。

いつでも、だれでも、「どこでも風車」エネルギー・ハーベスティング!



MALE ↔ FEMALE
FUNCTIONAL ↔ FASHIONABLE
YOUNG ↔ ELDERLY

